

# 決算説明会

## 2025年3月期

ミネベアミツミ株式会社

2025年5月9日

- 1. 決算概要と業績予想**
- 2. 経営方針と事業戦略**

# 決算概要と業績予想

取締役 社長執行役員 COO & CFO  
吉田 勝彦

## 売上高は過去最高 (13期連続増収)

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期	前期比 伸び率	2025年3月期 通期	
	通期	通期		2月予想	達成率
売上高	1,402,127	1,522,703	+8.6%	1,500,000	101.5%
営業利益	73,536	※ 94,482	+28.5%	93,000	101.6%
税引前利益	75,545	82,609	+9.4%	79,000	104.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54,035	59,457	+10.0%	57,000	104.3%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	133.05	147.58	+10.9%	141.49	104.3%

為替レート	2024年3月期 通期	2025年3月期 通期
US\$	143.31円	152.61円
ユーロ	155.18円	163.89円
タイバーツ	4.08円	4.36円
人民元	20.03円	21.12円

※50億円程度の一時費用が含まれています

## 4Qは売上高、営業利益とも修正後の計画達成

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	4Q	3Q	4Q	3Q		
売上高	348,803	369,643	374,823		+7.5%	+1.4%
営業利益	20,342	26,163	21,531		+5.8%	-17.7%
税引前利益	22,602	23,923	22,682		+0.4%	-5.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	18,327	17,418	16,966		-7.4%	-2.6%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	45.32	43.36	42.25		-6.8%	-2.6%

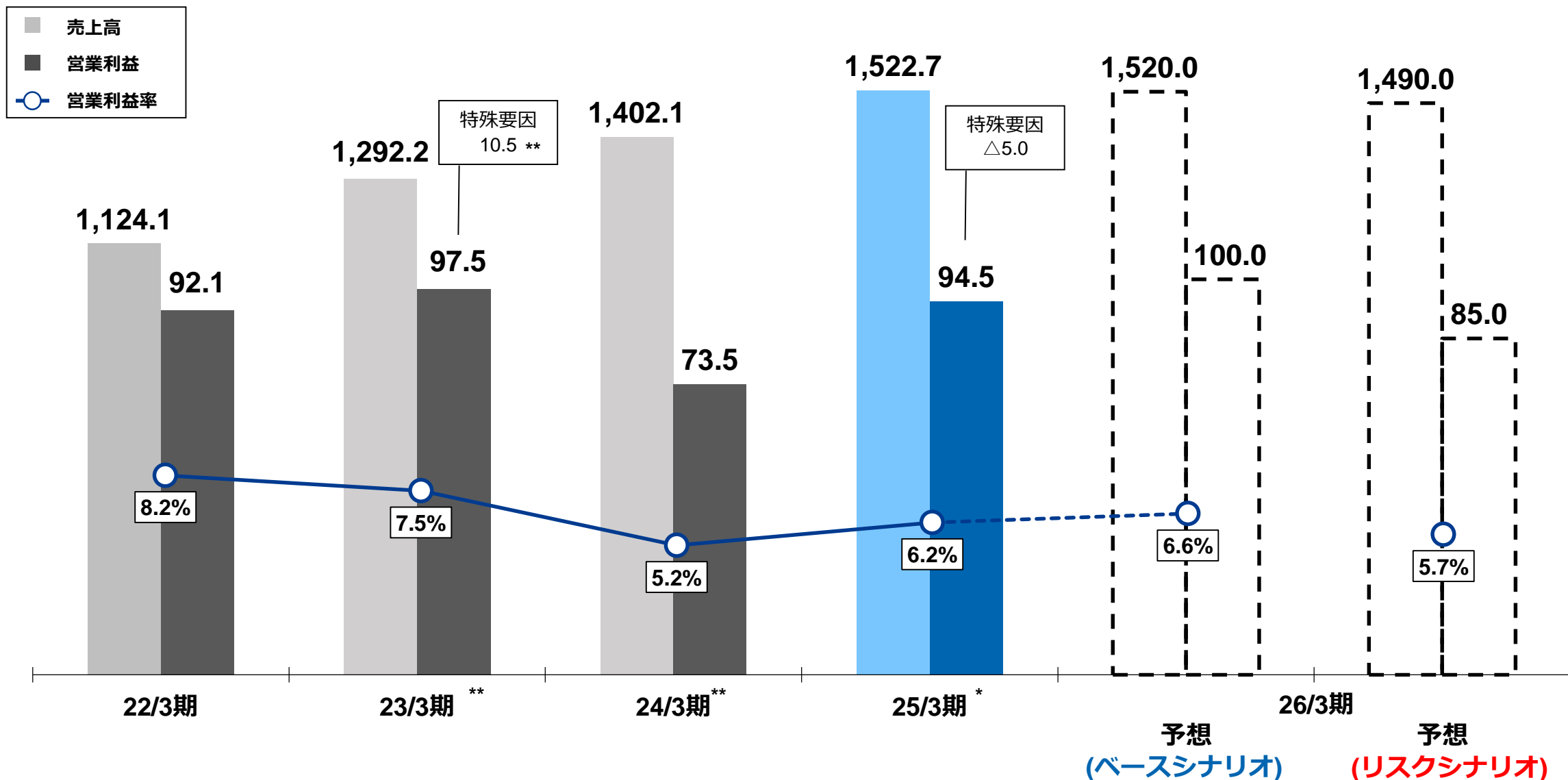
為替レート	2024年3月期		2025年3月期	
	4Q	3Q	4Q	3Q
US\$	146.76円	149.03円	154.11円	
ユーロ	159.48円	161.99円	160.51円	
タイバーツ	4.15円	4.42円	4.53円	
人民元	20.43円	20.88円	21.12円	

# 売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

\*ミネベアパワーデバイス・ソシオネクストのPPA評価完了に伴い、2025年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

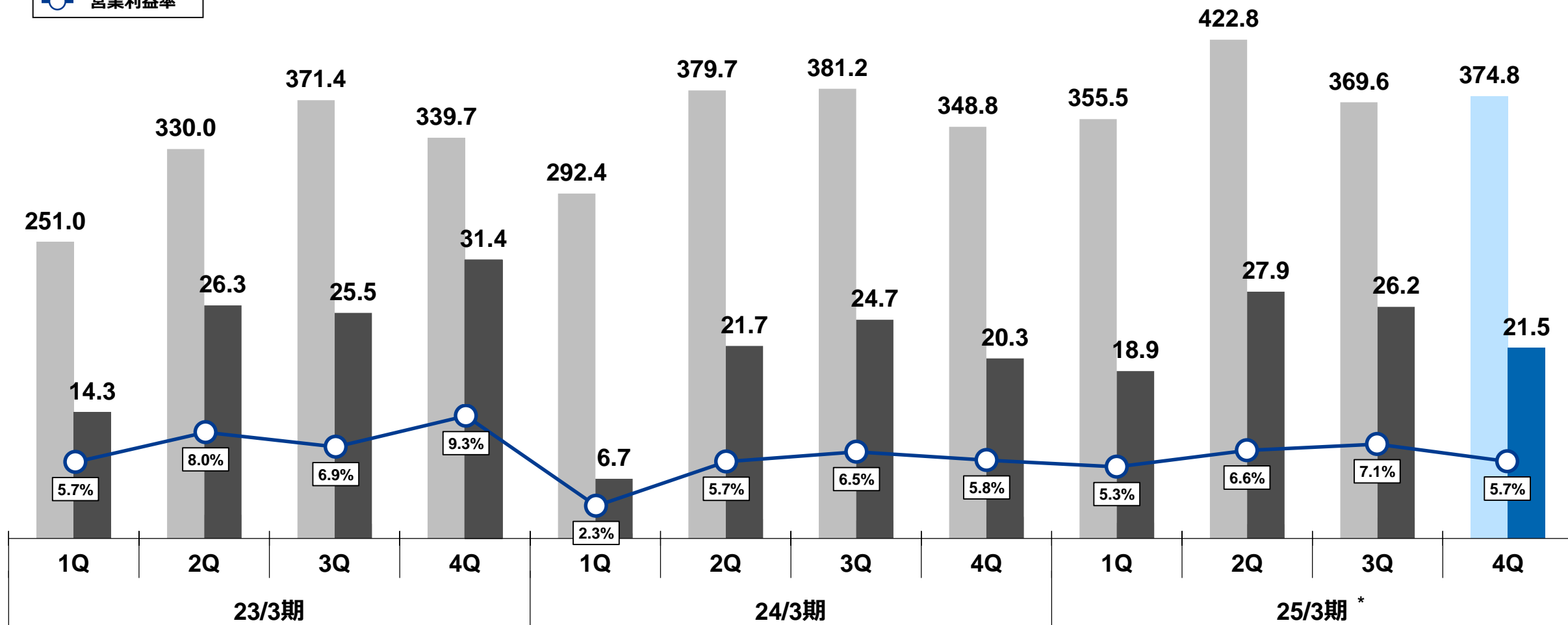
\*\*本多通信工業・ミネベアコネクテッド・ミネベアアクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正



# 売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

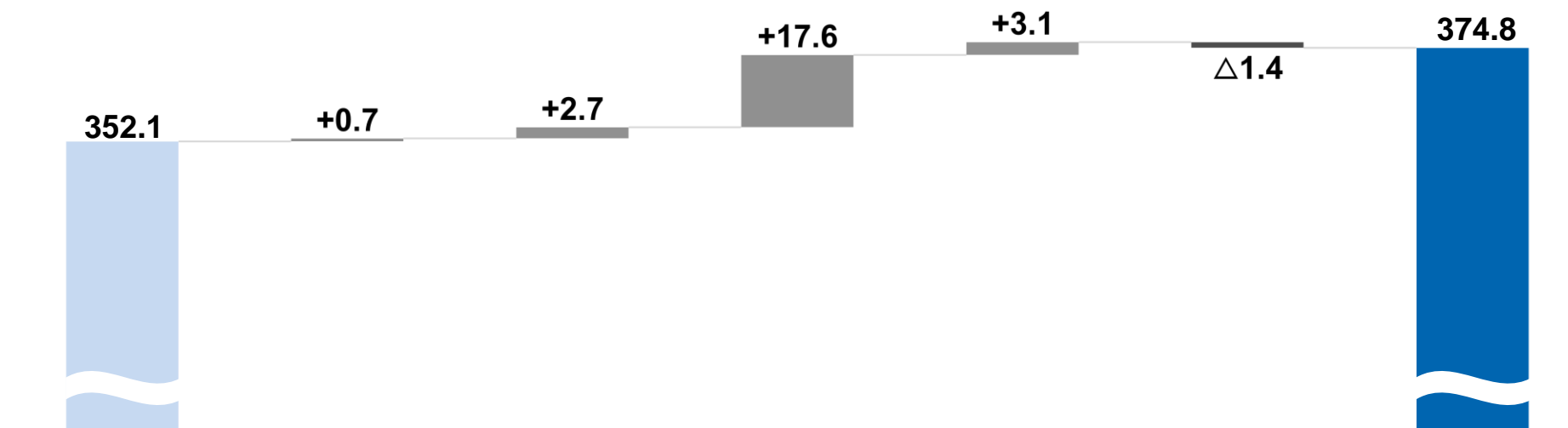
\*ミネベアパワーデバイス・ソシオネクストのPPA評価完了に伴い、2025年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正



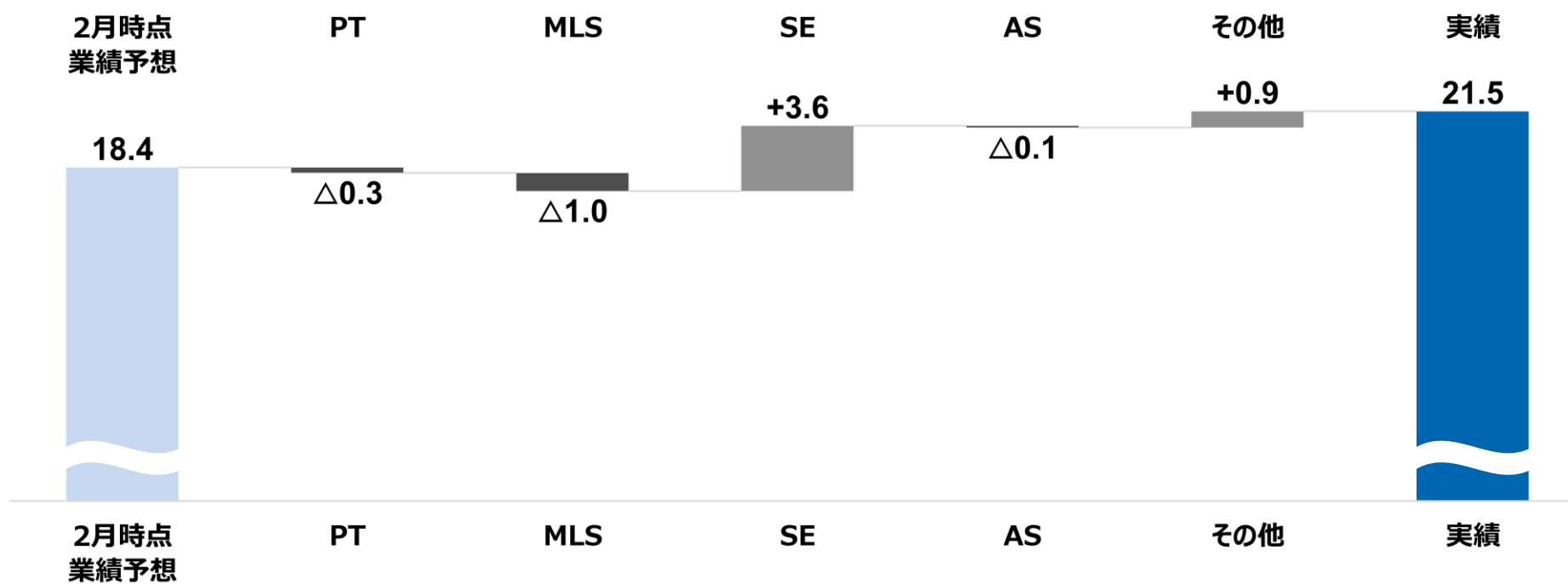
# 4Q実績 前回予想（2025年2月5日）からの差異

(10億円)

売上高



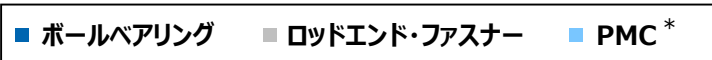
営業利益



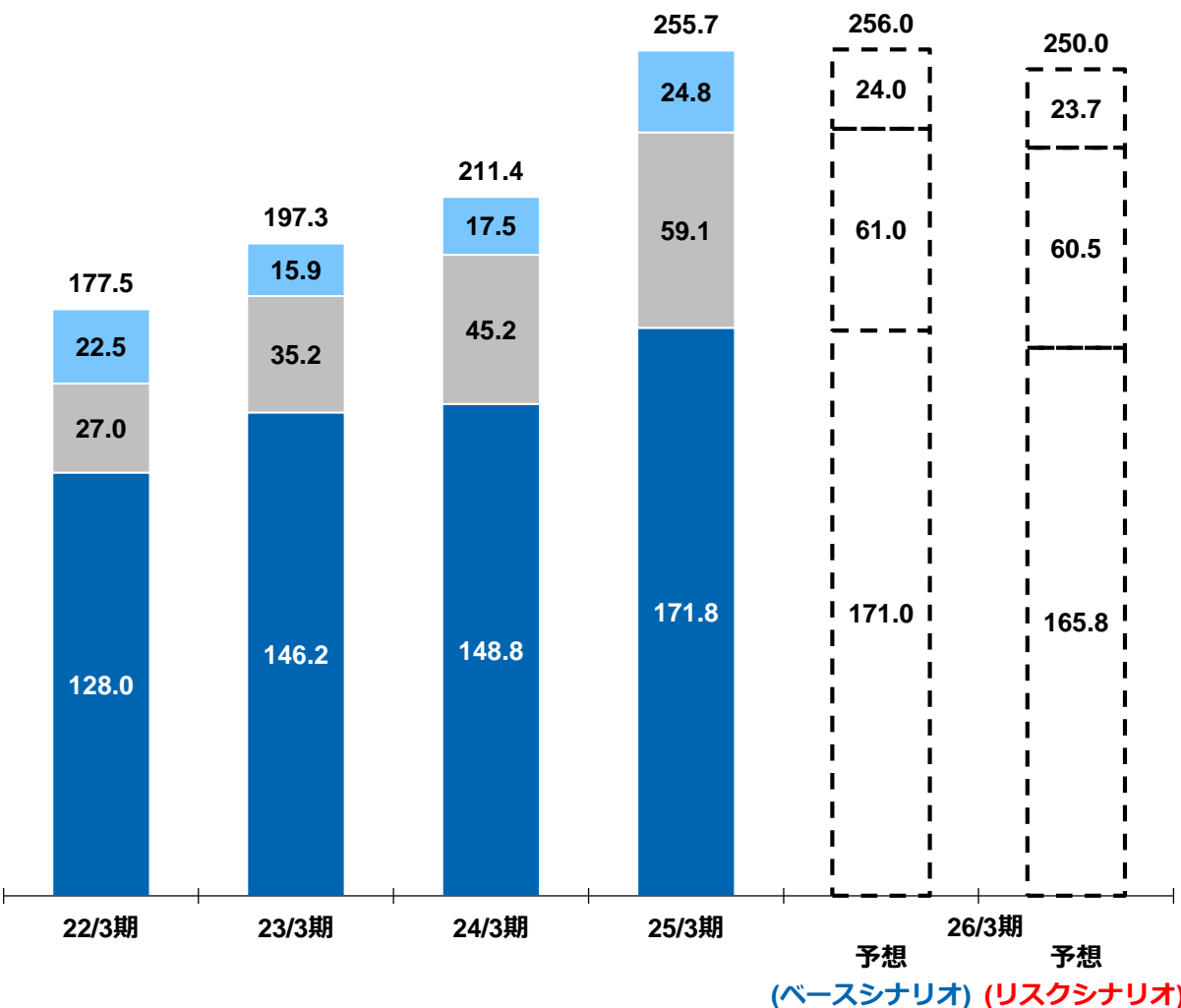


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

## 売上高 (10億円)

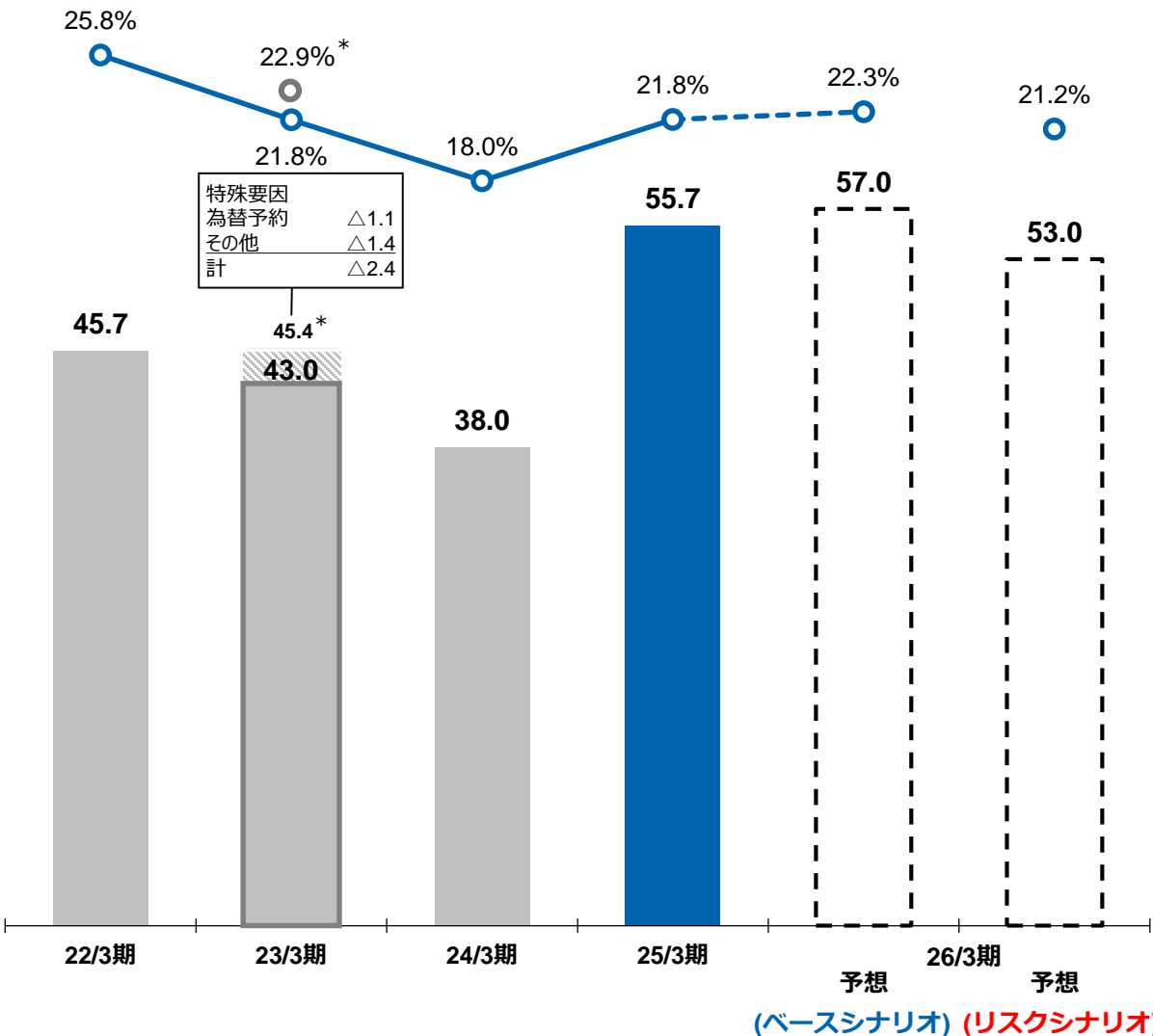


\*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更



## 営業利益 (10億円)

\*特殊要因除く

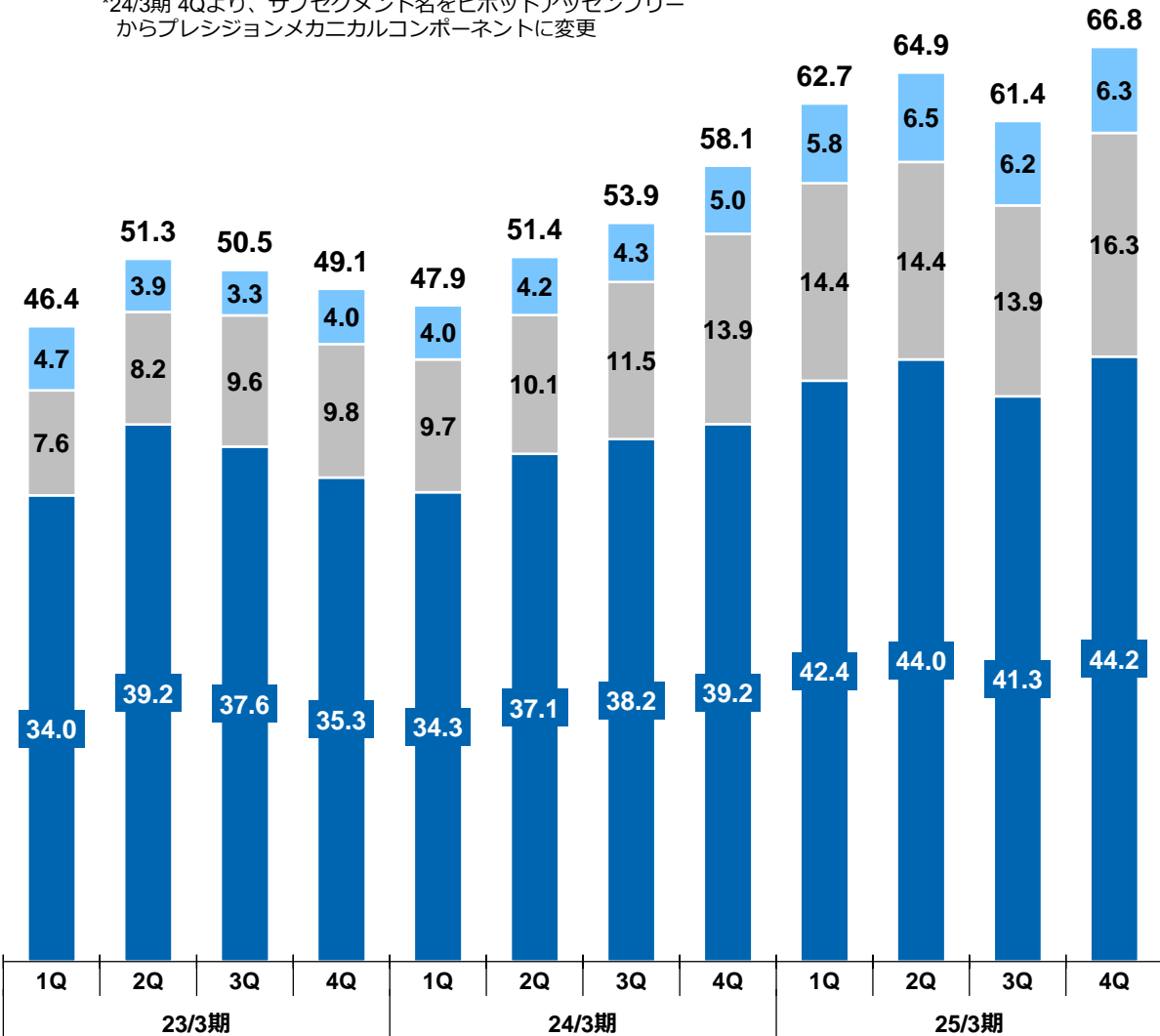


# プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

## 売上高 (10億円)

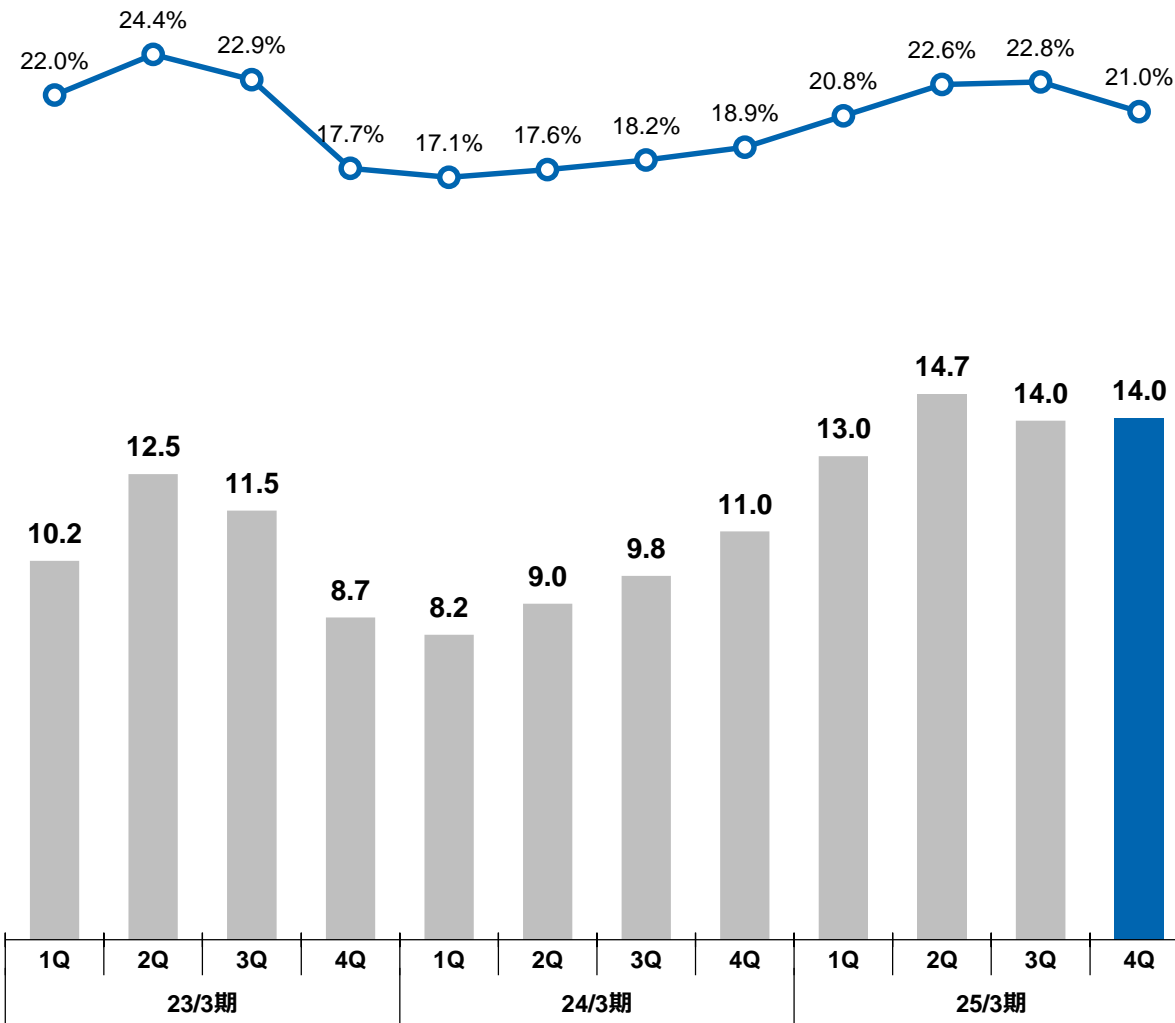
■ ボールベアリング ■ ロッドエンド・ファスナー ■ PMC\*

\*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更



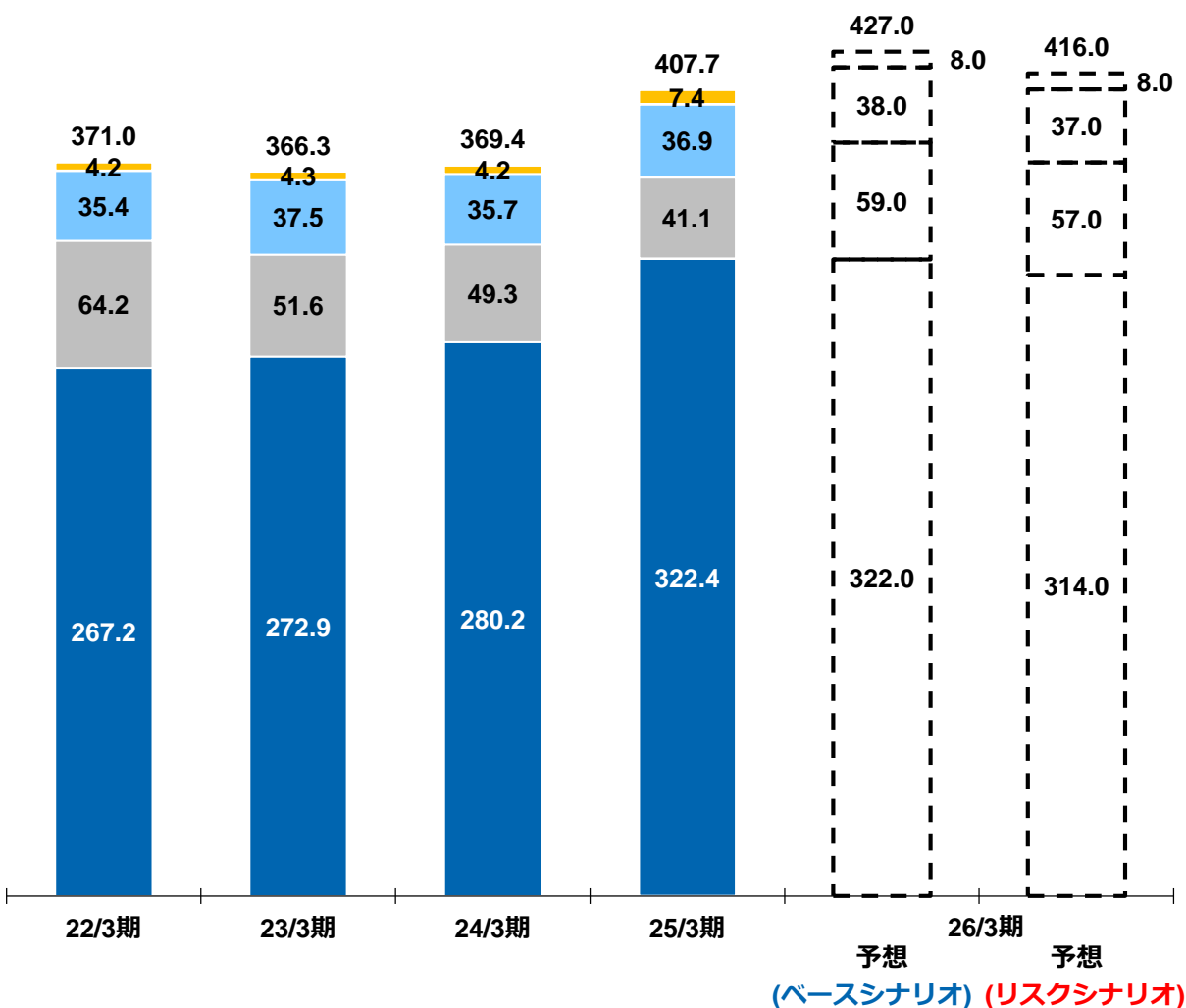
## 営業利益 (10億円)

■ 営業利益 ○ 営業利益率

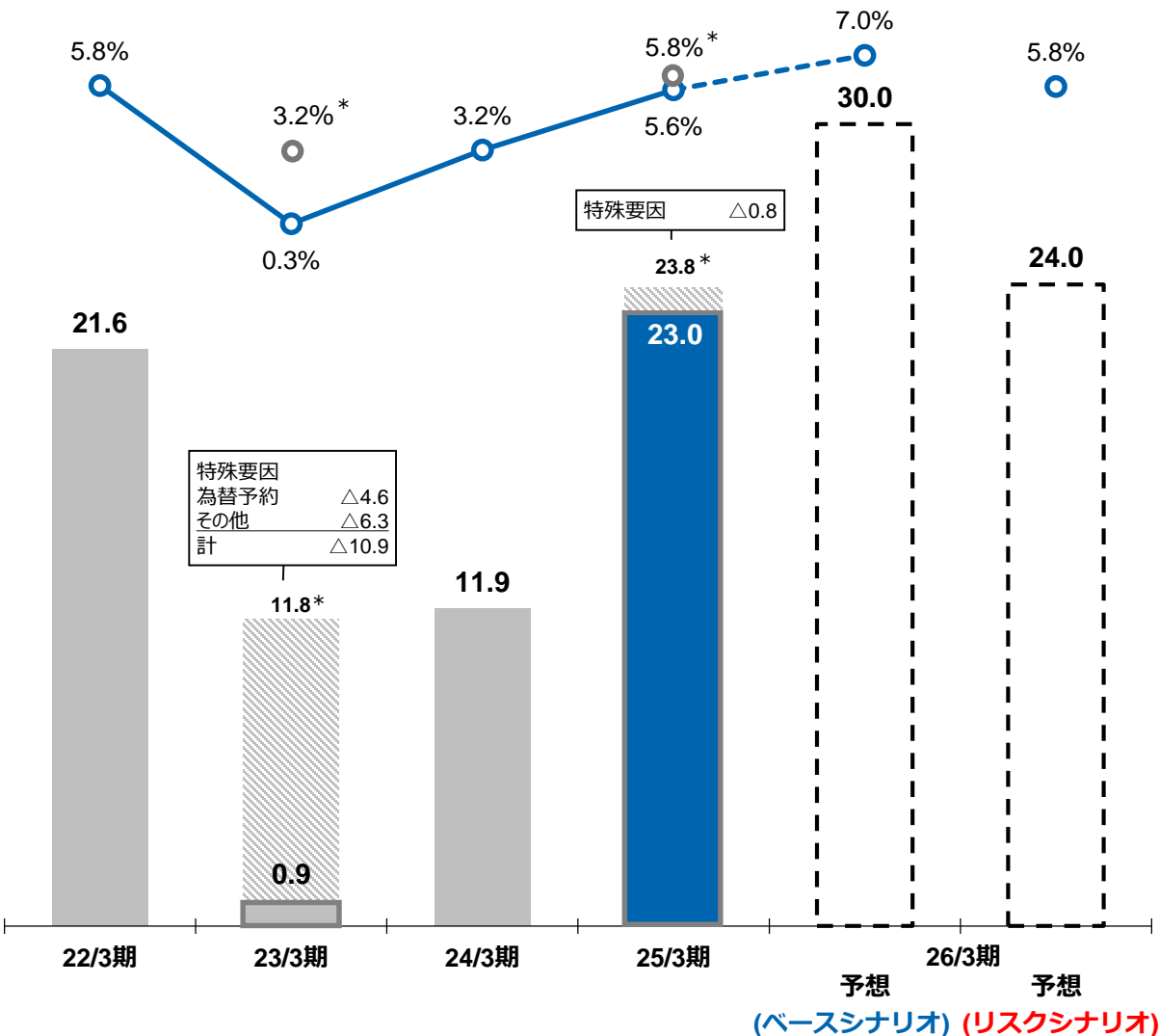


# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)



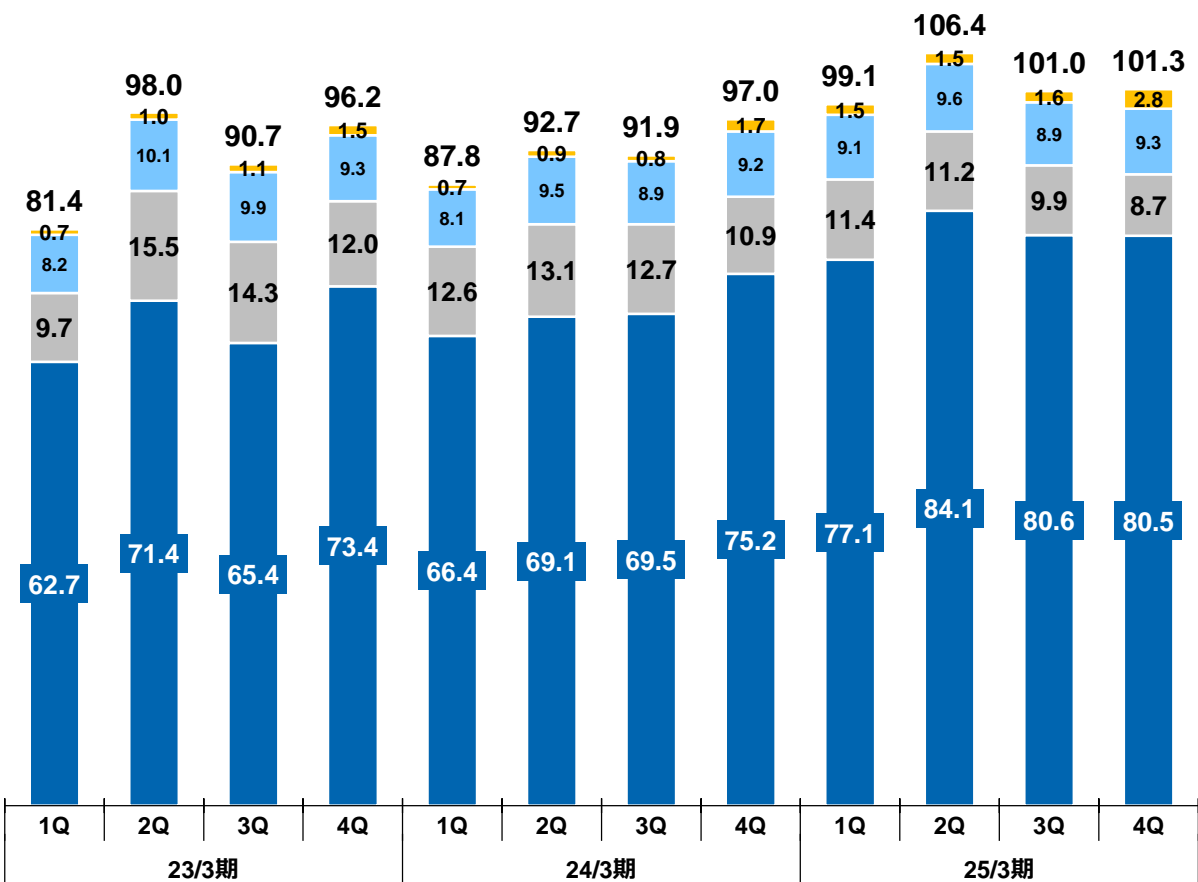
営業利益 (10億円)



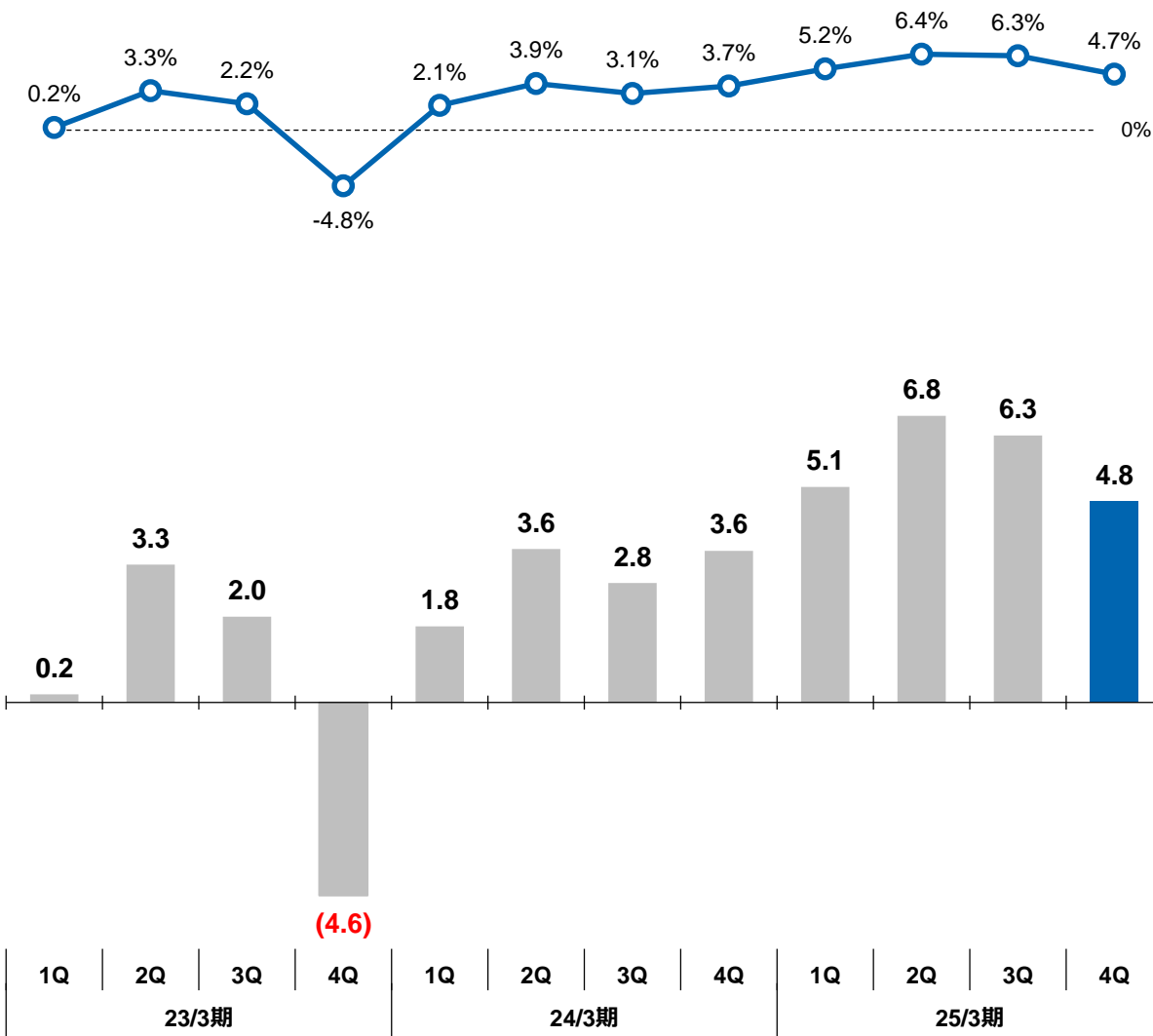
\*特殊要因除く

# モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

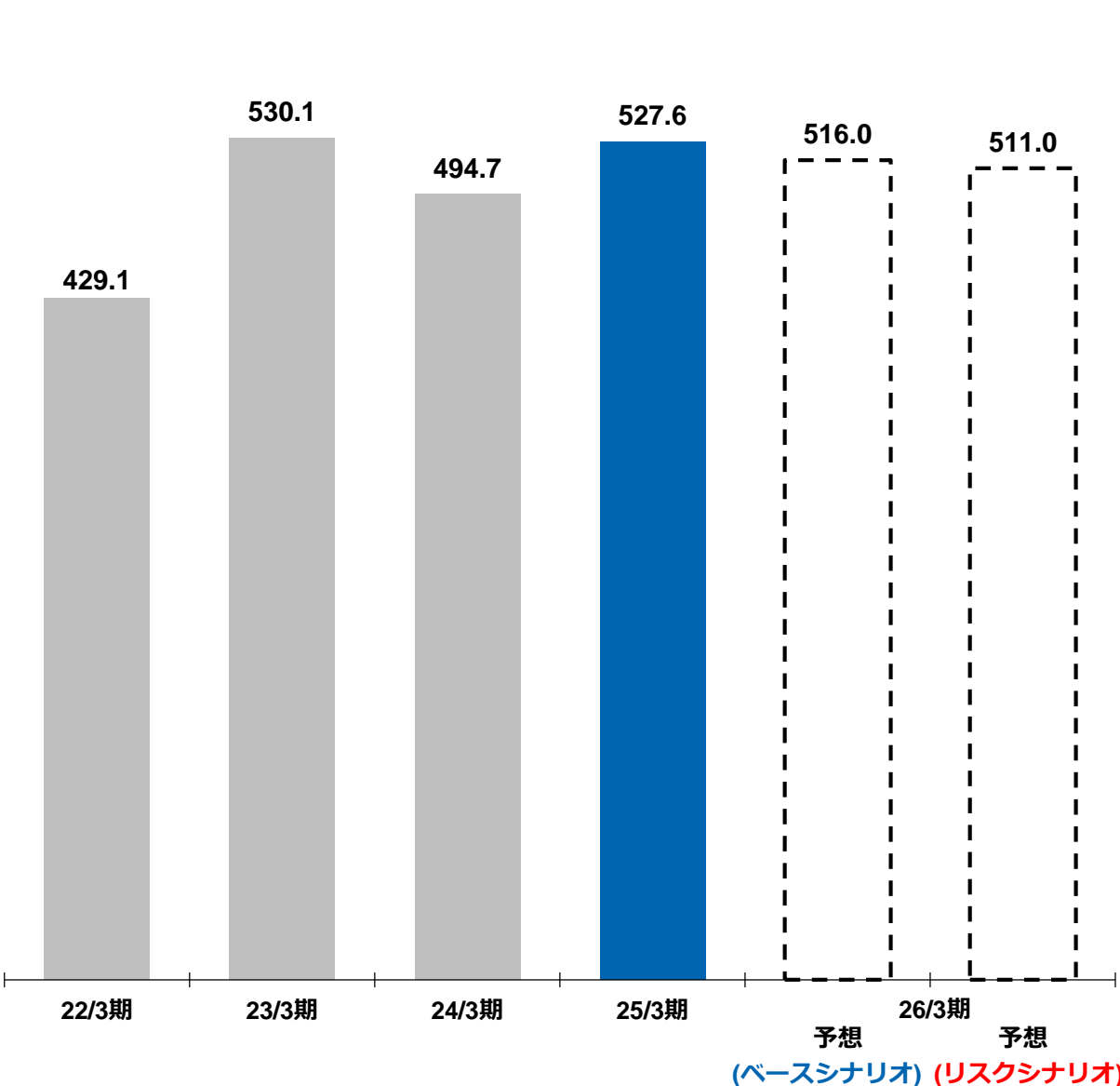


営業利益 (10億円)

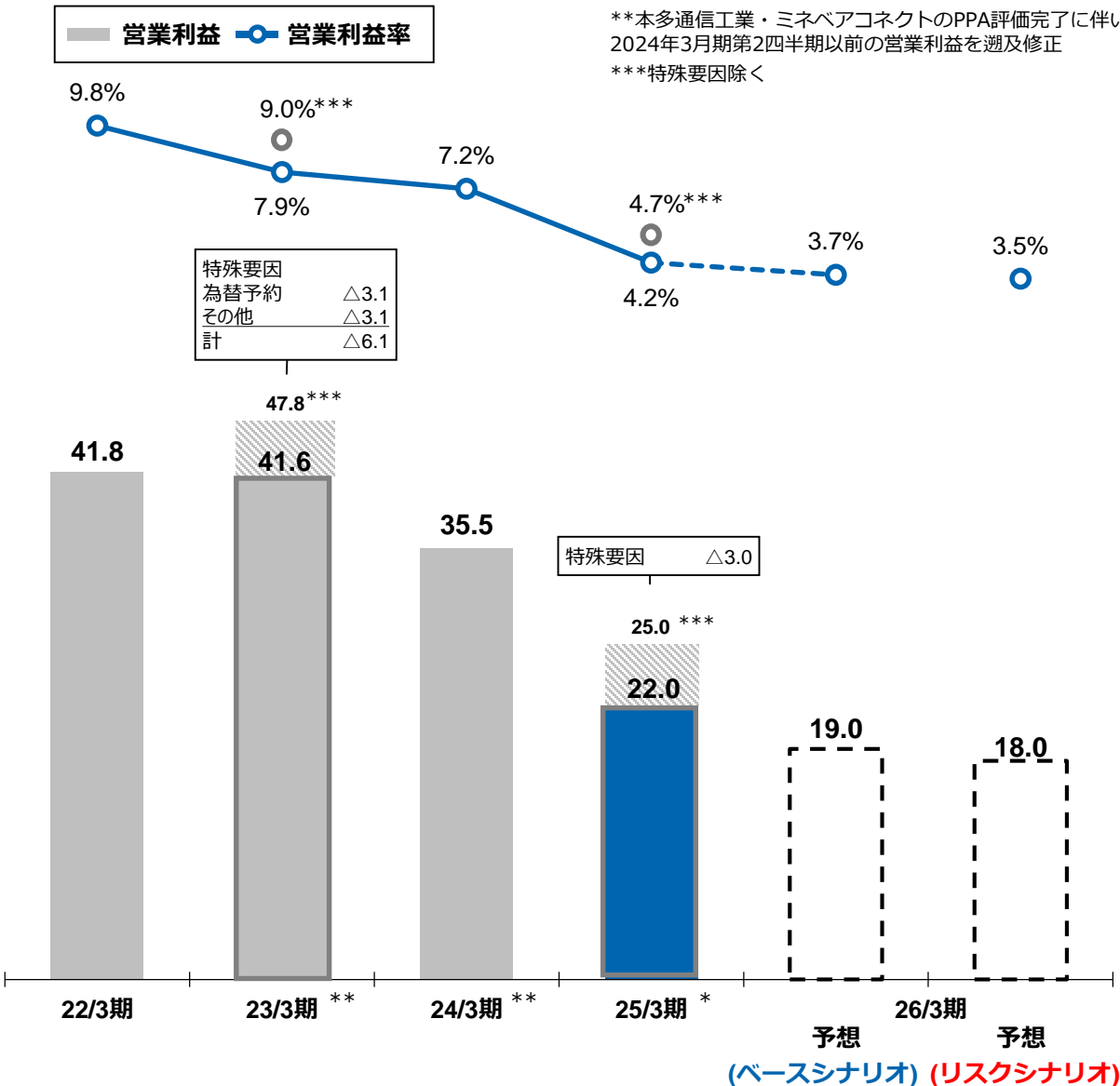


# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



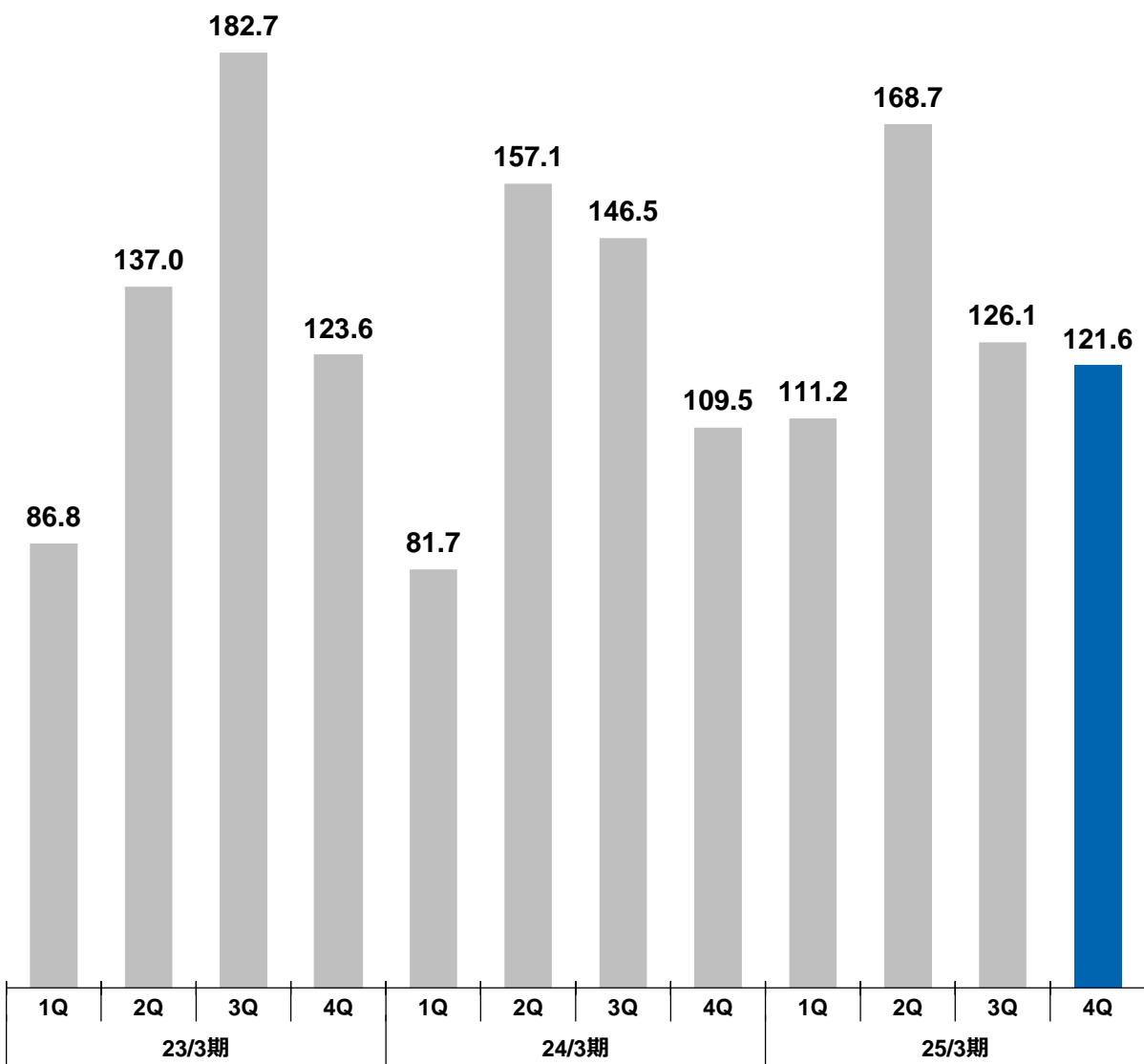
営業利益 (10億円)



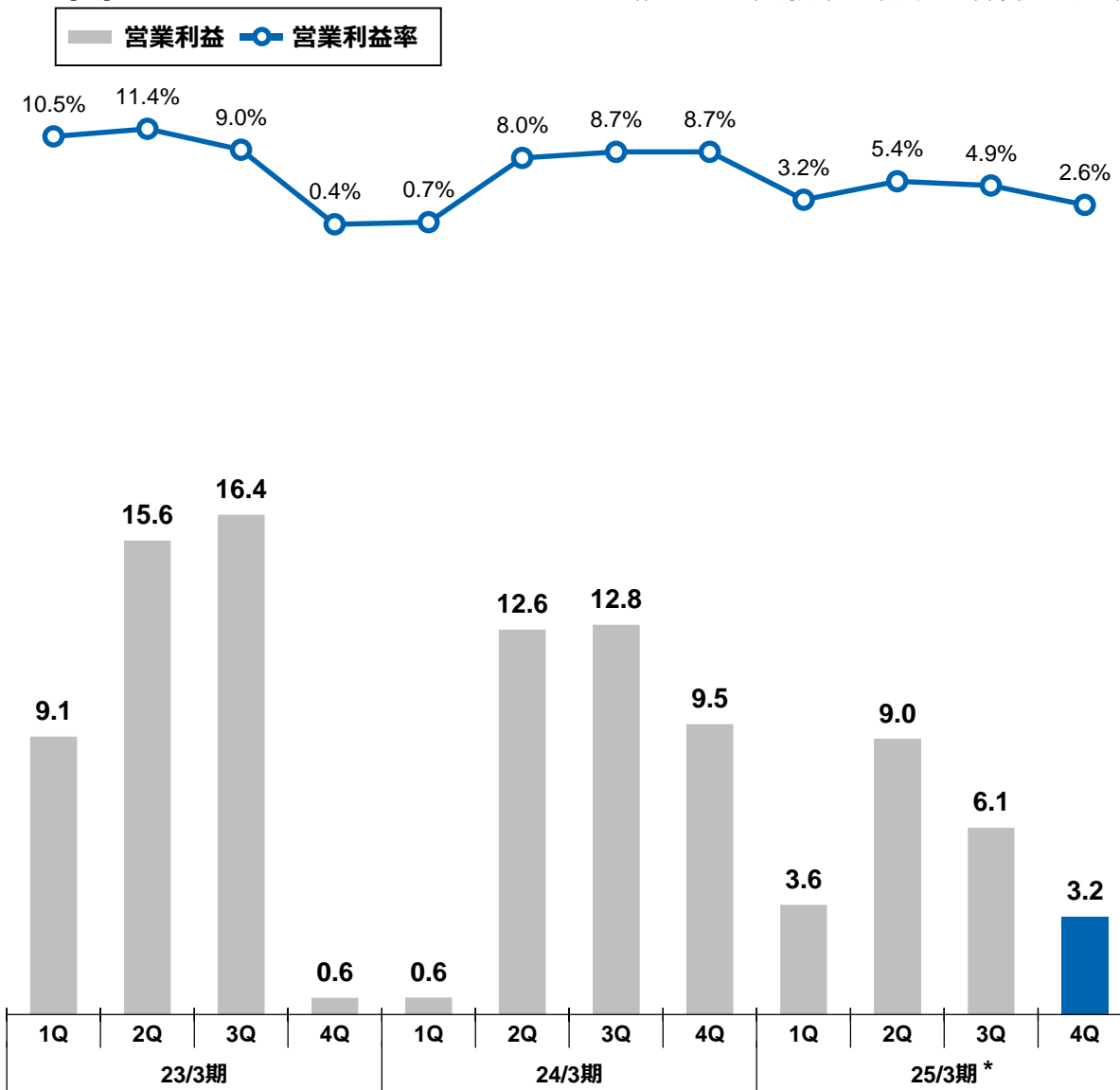
\*ミネベアパワーデバイス・ソシオネクストのPPA評価完了に伴い、2025年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正  
 \*\*本多通信工業・ミネベアコネクタのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第2四半期以前の営業利益を遡及修正  
 \*\*\*特殊要因除く

# セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



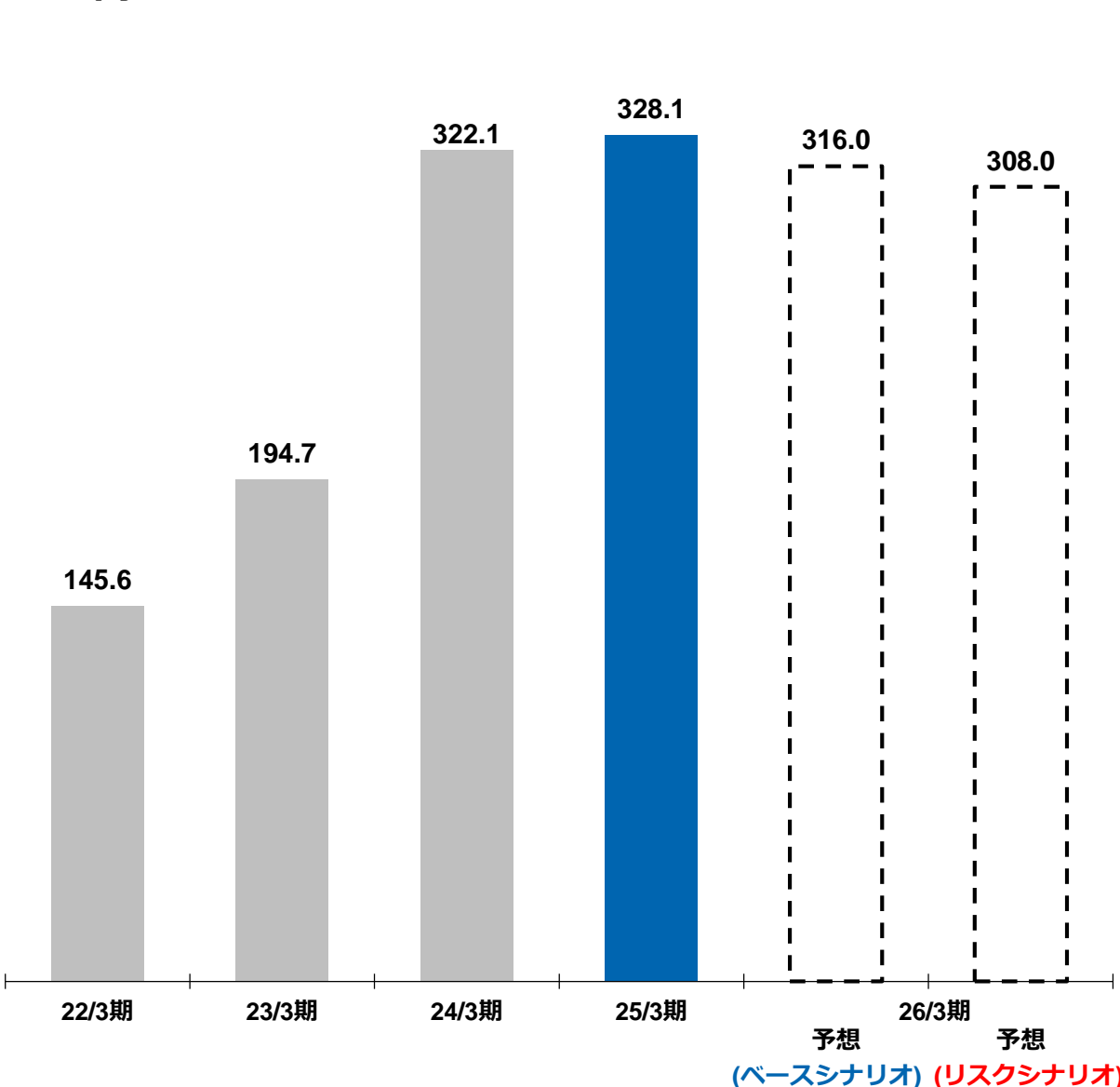
営業利益 (10億円)



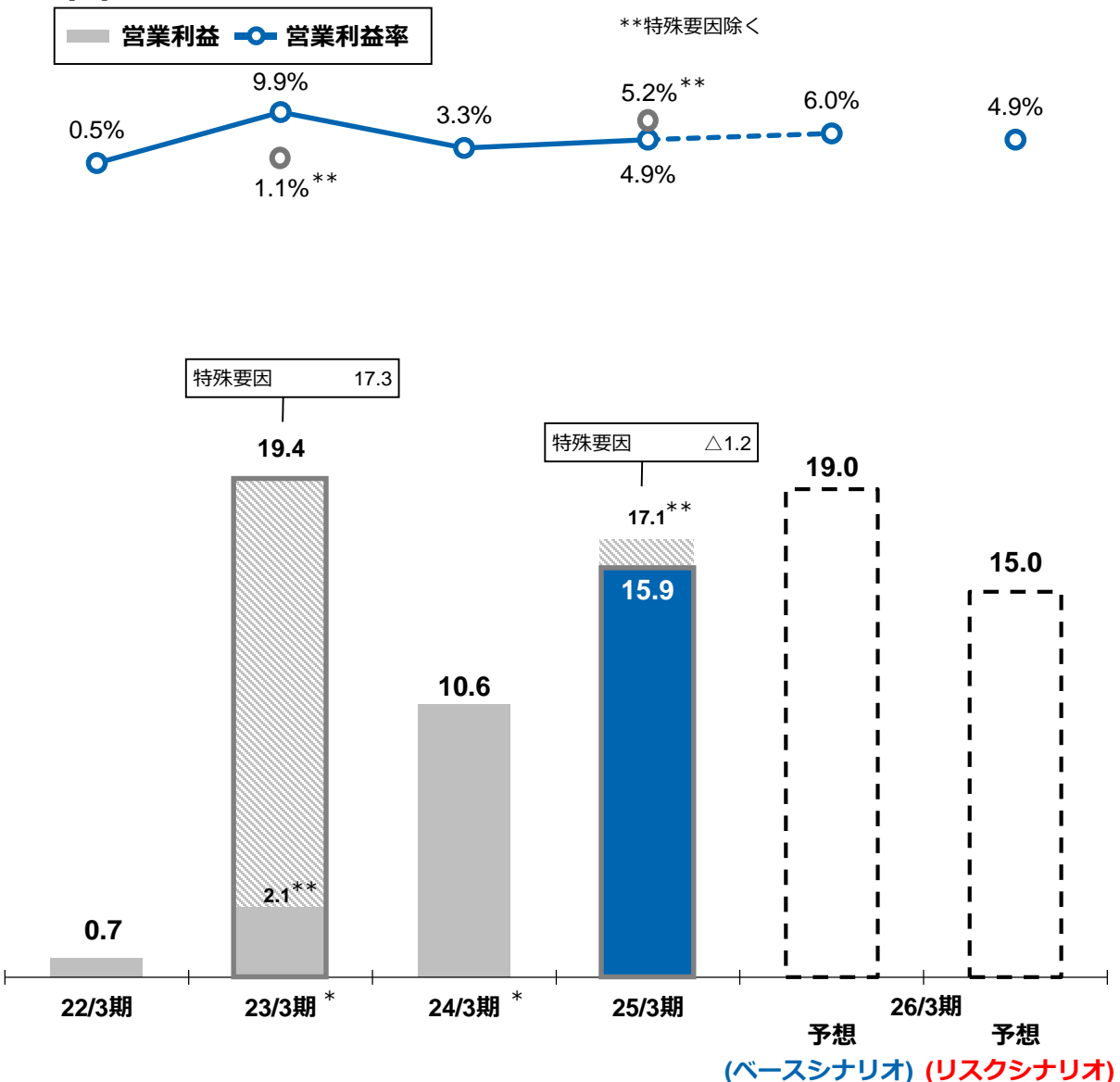
\*ミネベアパワーデバイス・ソシオネクストのPPA評価完了に伴い、2025年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



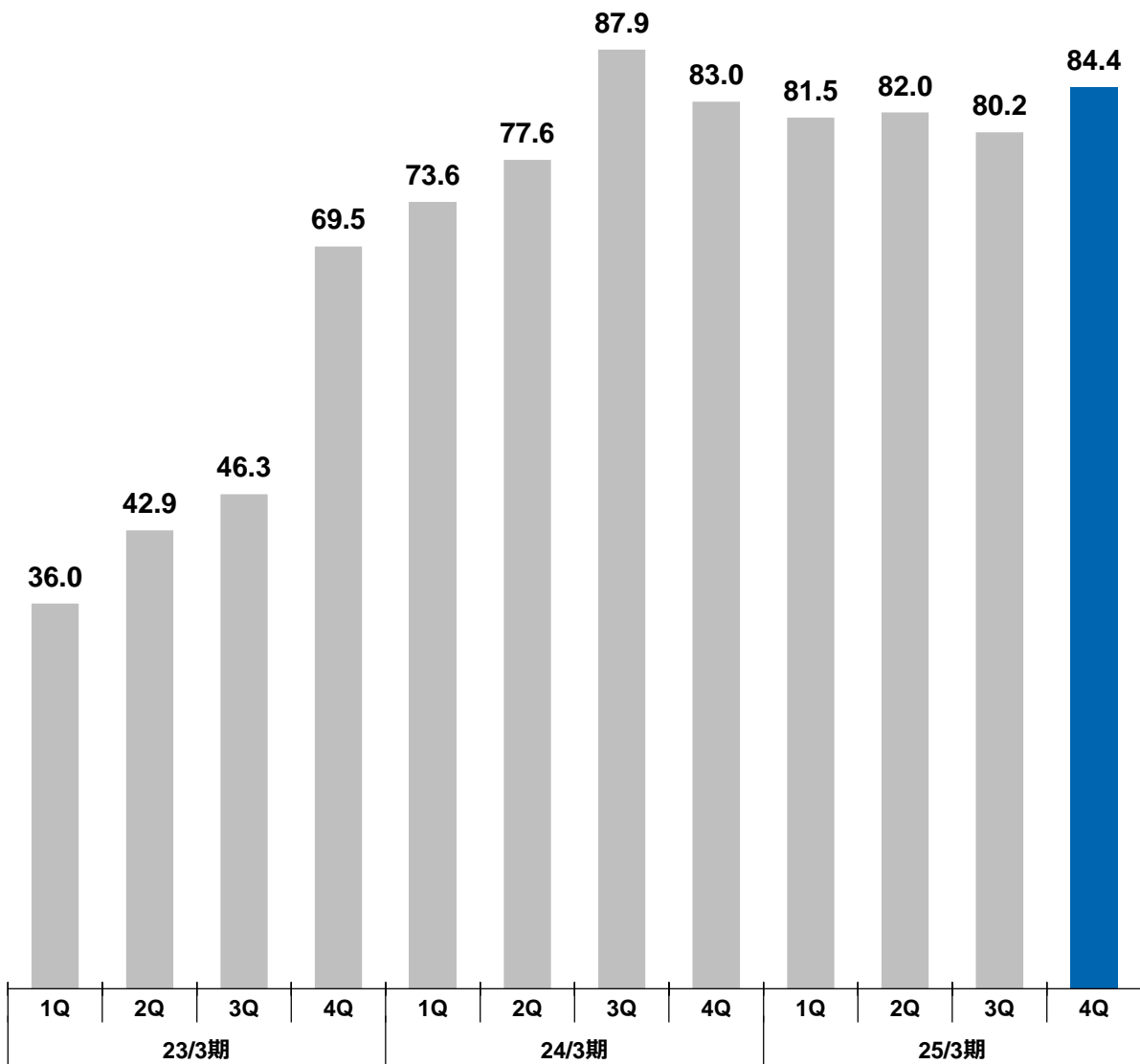
営業利益 (10億円)



\*ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正  
\*\*特殊要因除く

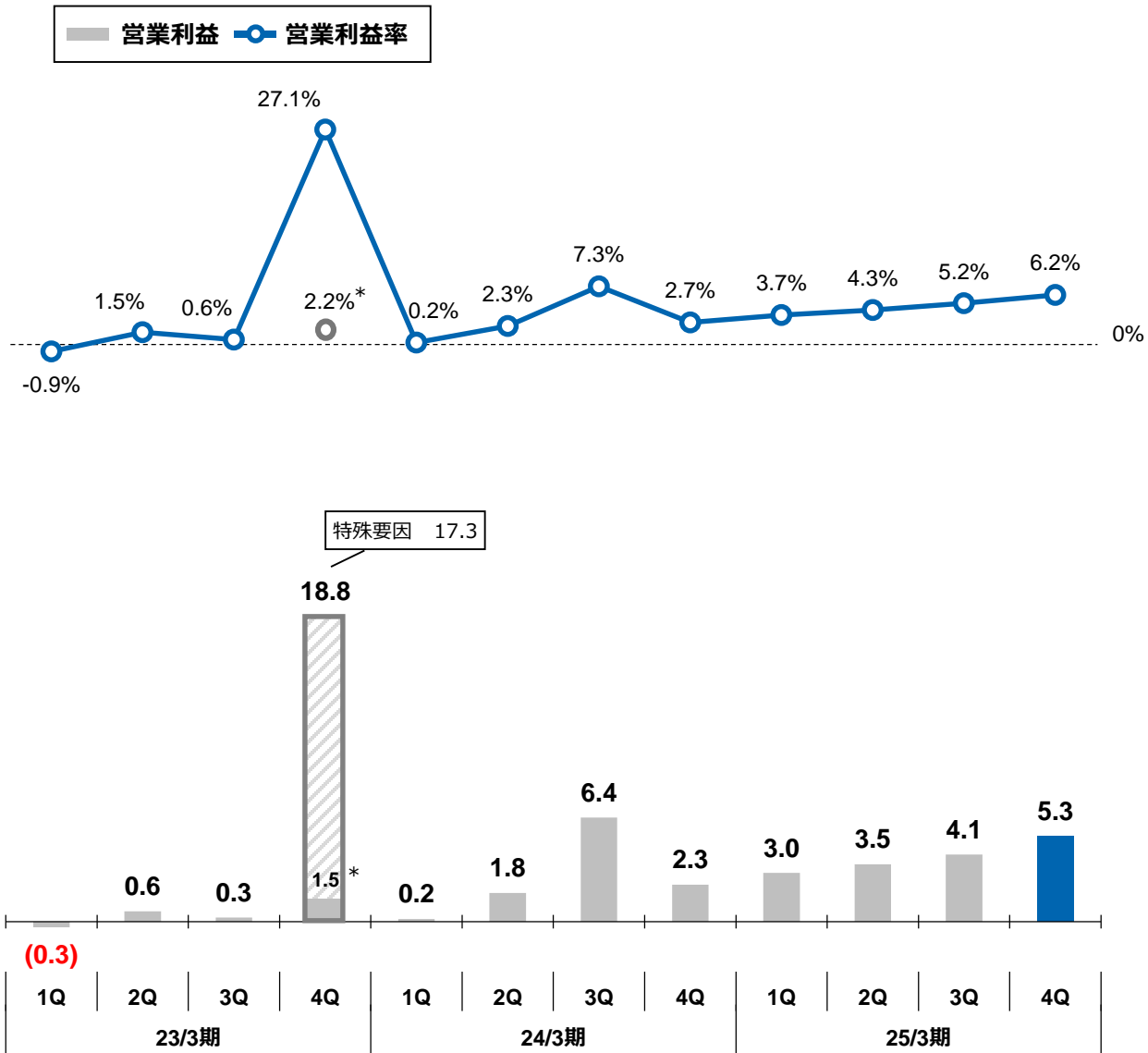
# アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

\*特殊要因除く





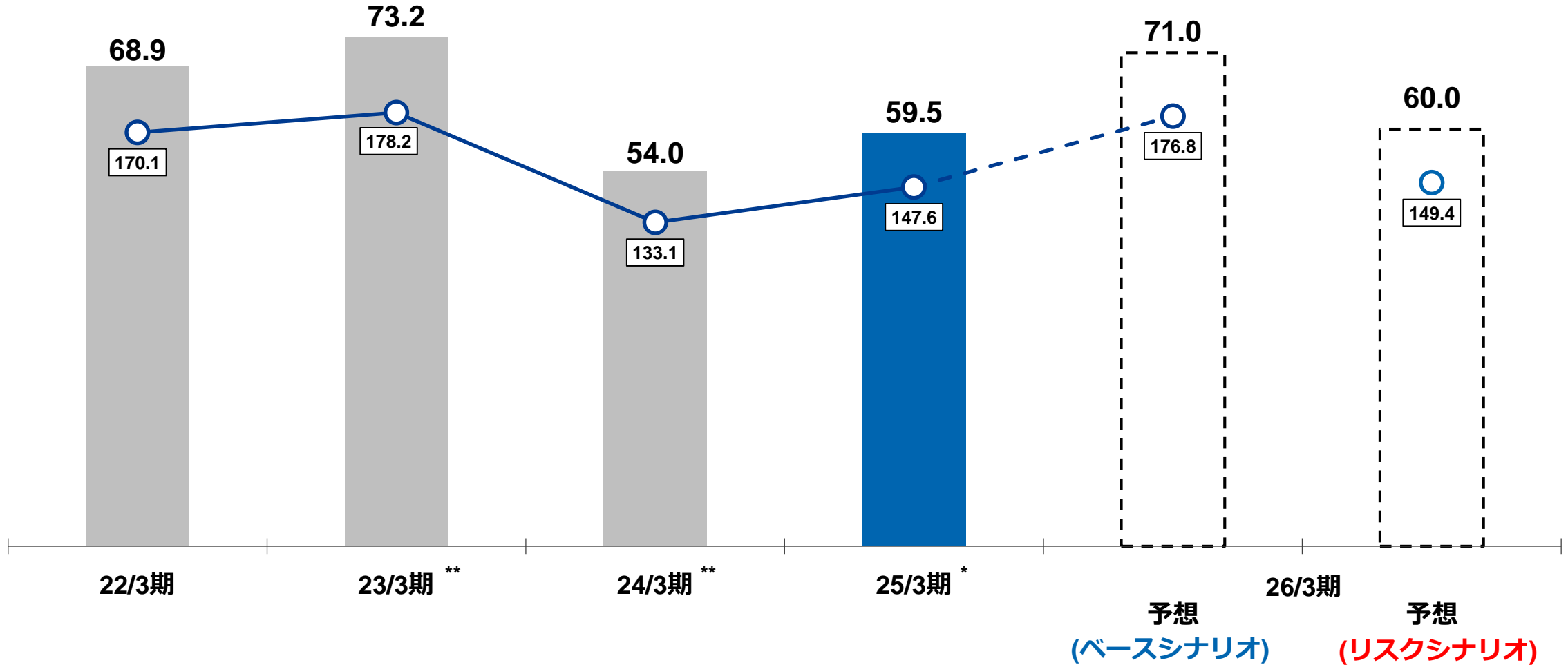
# 親会社の所有者に帰属する当期利益 / EPS

(10億円)

■ 親会社の所有者に帰属する当期利益    ● 基本的1株当たり当期利益 (円)

\*ミネベアパワーデバイス・ソシオネクストのPPA評価完了に伴い、2025年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

\*\*本多通信工業・ミネベアコネクスト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正

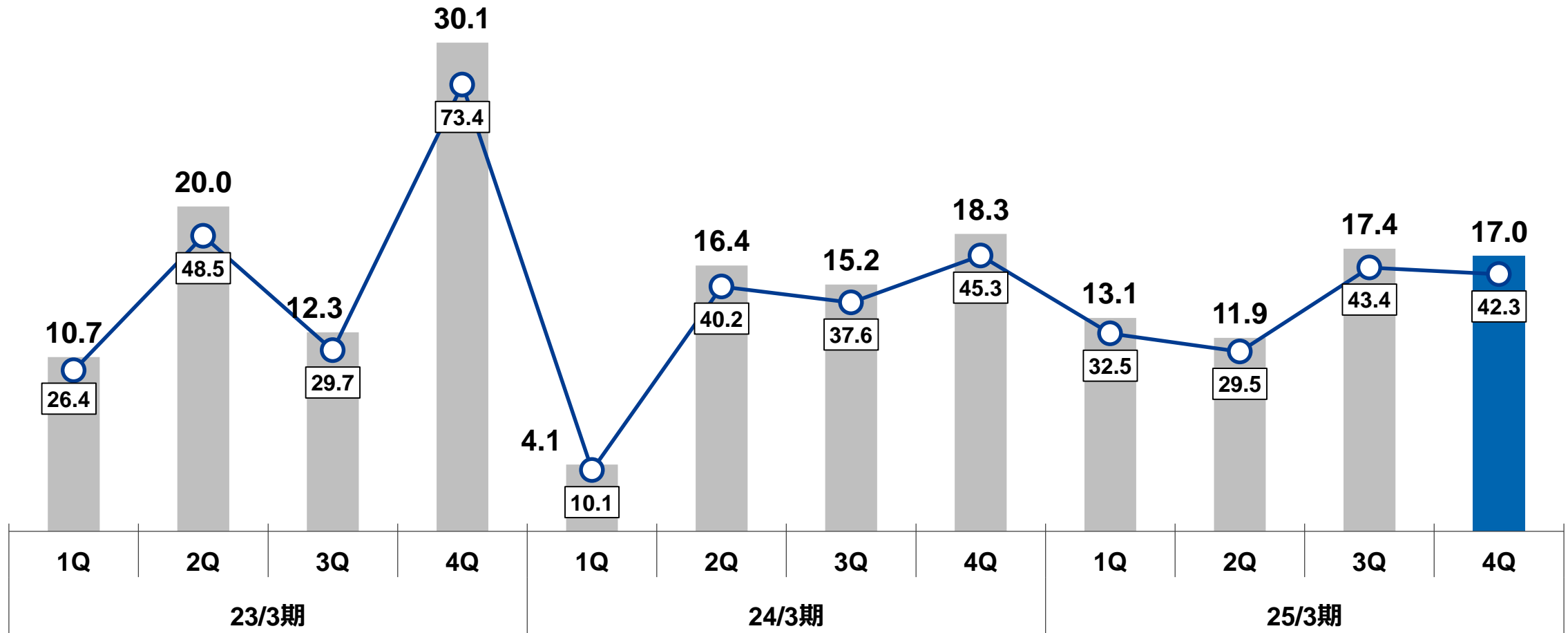


# 親会社の所有者に帰属する四半期利益 / EPS

(10億円)

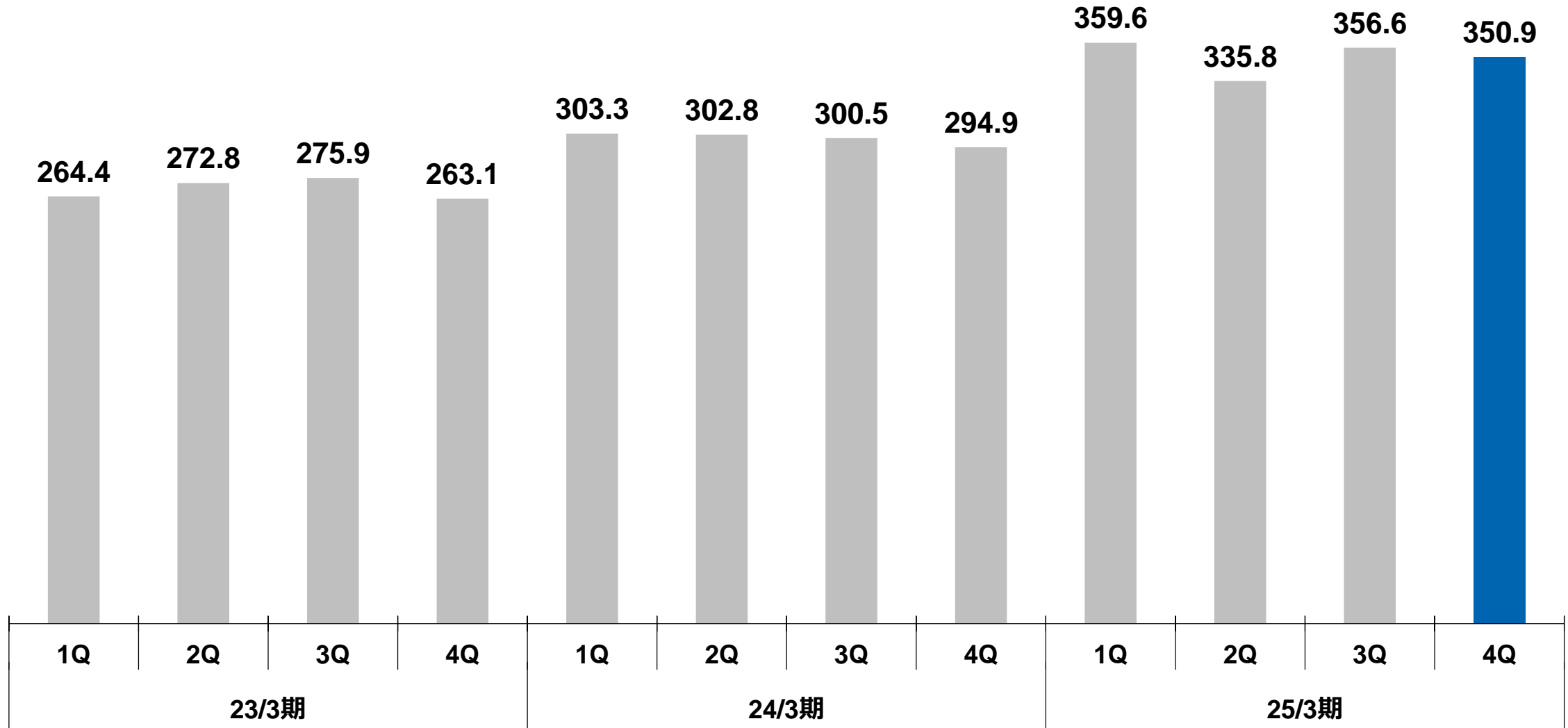
■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益

○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



# 棚卸資産

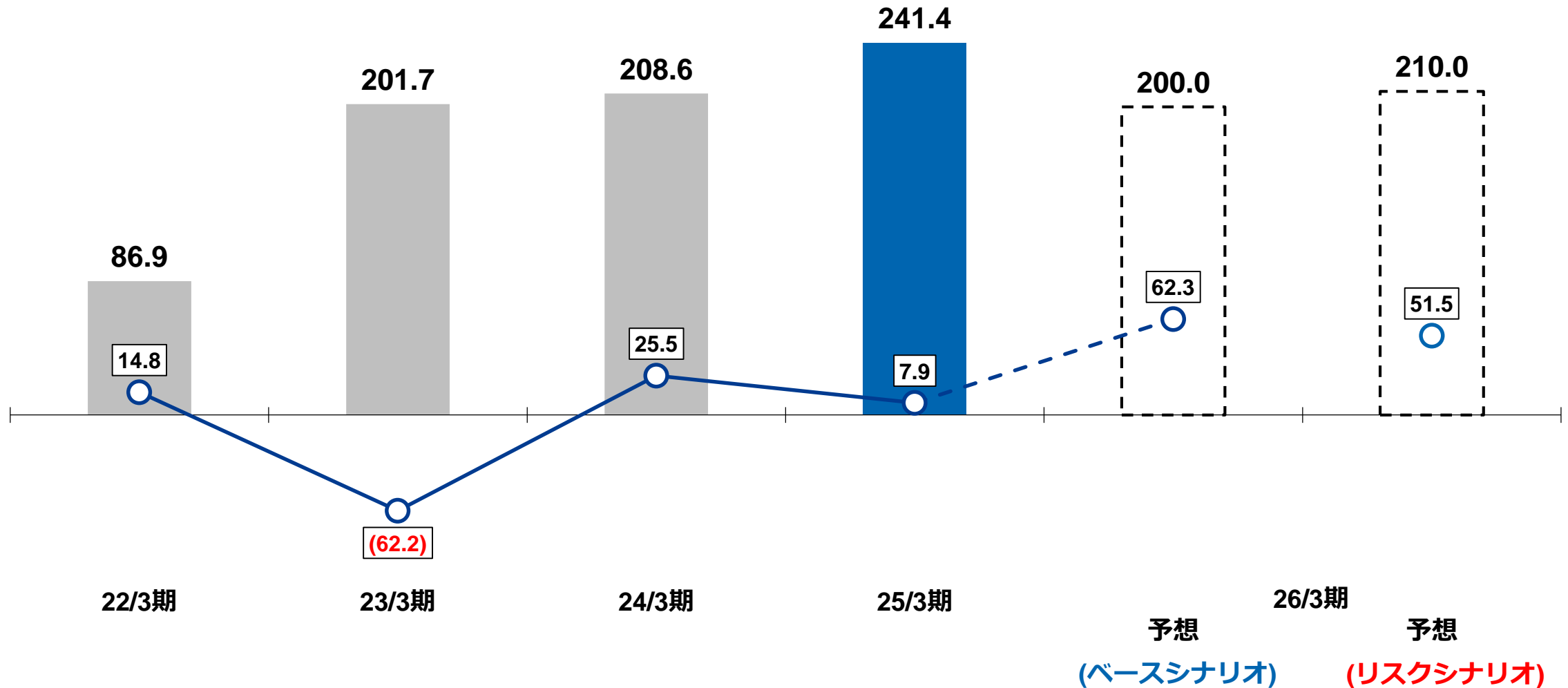
(10億円)



# ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円)

■ ネット有利子負債\*    ○ フリーキャッシュフロー



\*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

## 米相互関税の影響を踏まえ ベースシナリオに加え、リスクシナリオを想定

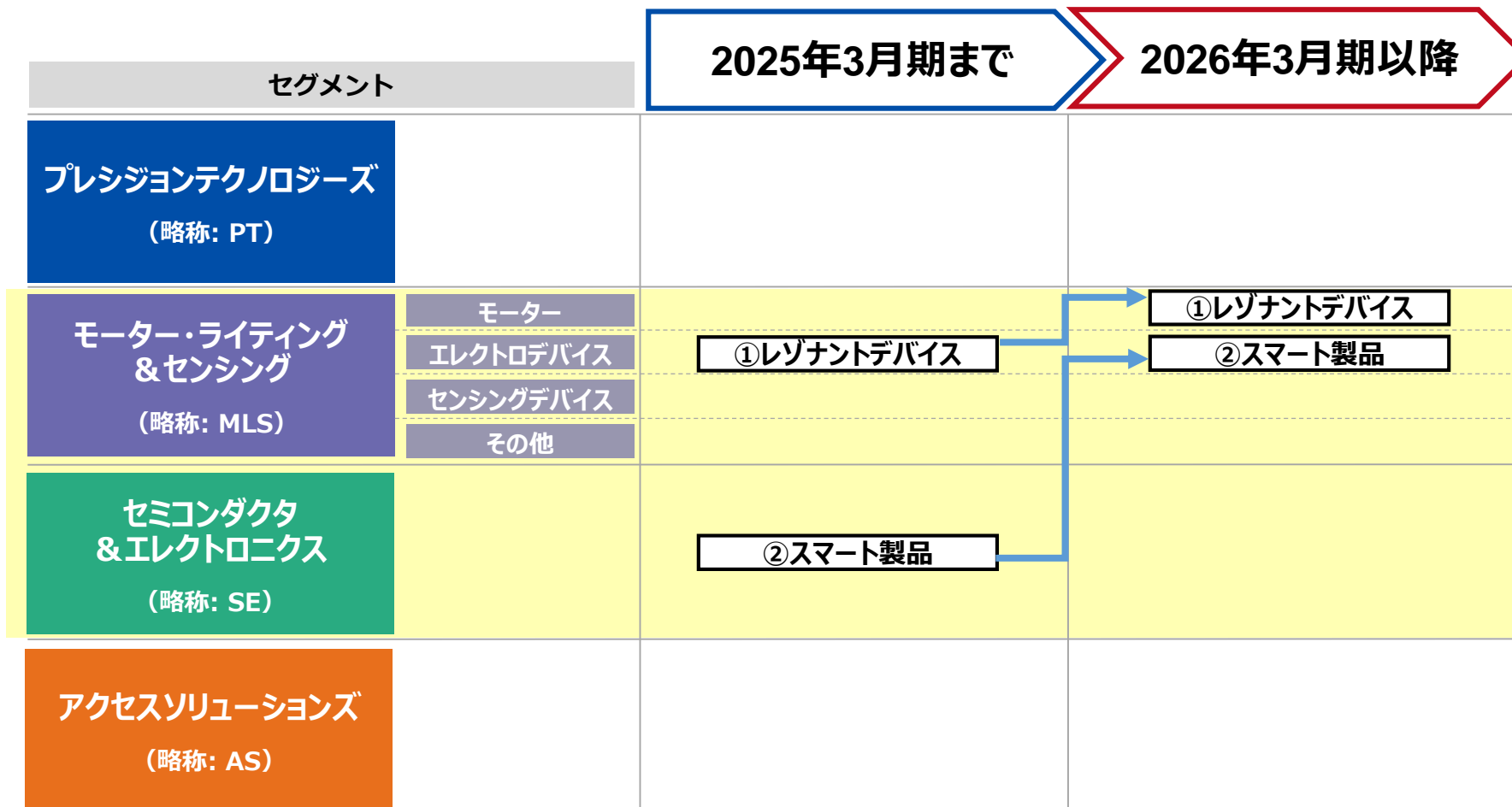
(百万円)	2025年3月期	2026年3月期 (ベースシナリオ)				2026年3月期 (リスクシナリオ)			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,522,703	774,500	745,500	1,520,000	-0.2%	764,500	725,500	1,490,000	-2.1%
営業利益	※ 94,482	42,500	57,500	100,000	+5.8%	38,000	47,000	85,000	-10.0%
税引前利益	82,609	40,500	55,500	96,000	+16.2%	36,000	45,000	81,000	-1.9%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	59,457	30,000	41,000	71,000	+19.4%	26,500	33,500	60,000	+0.9%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	147.58	74.70	102.10	176.80	+19.8%	65.99	83.42	149.41	+1.2%

為替レート	2025年3月期 通期	2026年3月期 想定
US\$	152.61円	140.00円
ユーロ	163.89円	160.00円
タイバーツ	4.36円	4.20円
人民元	21.12円	19.40円

※50億円程度の一時費用が含まれています

# セグメント変更について

一層のシナジー創出を図るため、関連事業、要素技術を集約



# セグメント別業績予想（ベースシナリオ）

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比※
売上高	1,522,703	774,500	745,500	1,520,000	-0.2%
プレジジョンテクノロジーズ	255,702	127,500	128,500	256,000	+0.1%
モーター・ライティング&センシング	407,743	207,000	220,000	427,000	+4.7%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	527,646	284,000	232,000	516,000	-2.2%
アクセスソリューションズ	328,081	153,500	162,500	316,000	-3.7%
その他	3,531	2,500	2,500	5,000	+41.6%
営業利益	94,482	42,500	57,500	100,000	+5.8%
プレジジョンテクノロジーズ	55,696	27,500	29,500	57,000	+2.3%
モーター・ライティング&センシング	22,984	12,000	18,000	30,000	+30.5%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	22,003	9,000	10,000	19,000	-13.6%
アクセスソリューションズ	15,924	6,500	12,500	19,000	+19.3%
その他	△1,194	△1,000	△1,000	△2,000	-
調整額	△20,931	△11,500	△11,500	△23,000	-

※2025年3月期通期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません

# セグメント別業績予想 (リスクシナリオ)

(百万円)	2025年3月期 通期	2026年3月期			
		上半期	下半期	通期	前期比 ※
売上高	1,522,703	764,500	725,500	1,490,000	-2.1%
プレジジョンテクノロジーズ	255,702	125,500	124,500	250,000	-2.2%
モーター・ライティング&センシング	407,743	203,500	212,500	416,000	+2.0%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	527,646	282,000	229,000	511,000	-3.2%
アクセスソリューションズ	328,081	151,000	157,000	308,000	-6.1%
その他	3,531	2,500	2,500	5,000	+41.6%
営業利益	94,482	38,000	47,000	85,000	-10.0%
プレジジョンテクノロジーズ	55,696	26,000	27,000	53,000	-4.8%
モーター・ライティング&センシング	22,984	10,000	14,000	24,000	+4.4%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	22,003	9,000	9,000	18,000	-18.2%
アクセスソリューションズ	15,924	5,500	9,500	15,000	-5.8%
その他	△1,194	△1,000	△1,000	△2,000	-
調整額	△20,931	△11,500	△11,500	△23,000	-

※2025年3月期通期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません



# 経営方針と事業戦略

Management policy & Business strategy

2025年5月9日

代表取締役 会長 CEO

貝沼 由久



## 全体

- 売上高は12期連続で過去最高を更新。営業利益は945億円で着地。特殊要因を除いた実質ベースでは995億円で過去最高
- PTの営業利益は過去最高の557億円。MLSのモーターは予想を下回るも営業利益230億円で過去最高。ASは構造改革が進展し、営業利益は過去最高\*の159億円 ※特殊要因を除いた実質ベース
- 営業利益1,000億円未達成の理由はサブコア（光デバイス、機構部品）。会長室ICU対応中
- SEのアナログ半導体は市場低迷の中でもグローバルニッチ戦略が功を奏し、影響は限定的
- 各事業で収益力は着実に向上しているものの、26/3期の市場環境は米相互関税の影響を踏まえベースシナリオに加え、リスクシナリオを想定  
売価の適正化、設備投資抑制、生産地移管など様々な対策を講じ、影響を最小限にとどめていく
- M&Aの機会増加。「4高」ニーズにこたえるコア事業「8本槍」を強化  
2025年5月2日に芝浦電子TOBを開始（6月2日まで）。共に企業価値向上を目指す

## プレジジョン テクノロジーズ (PT)

- データセンター向け、自動車向けは堅調に推移
- 航空機向けの通期営業利益は過去最高。グローバル生産ネットワークを活かし、さらなる成長を見込む

## モーター・ライティング& センシング (MLS)

- HDD向けモーターは4Q若干調整。車載・非車載モーターともに市場低迷の影響は受けるも収益力は着実に向上
- LEDバックライトはタブレット向けの赤字脱却、車載向け収益力向上に取り組む

## セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)

- アナログ半導体ではエイブリックは30%を超える営業利益率を確保
- パワー半導体はミネベアパワーデバイス (MPSD) のPMIは順調。滋賀工場の収益改善を進める

## アクセスソリューションズ (AS)

- 市場低迷の中、PMIおよび構造改革の進展により収益性改善。Tier1ポジションと相合力を活かしさらなる飛躍に向けて着実に前進

## 営業利益はベースシナリオ1,000億円、リスクシナリオ850億円

26/3期  
ベースシナリオ  
ポイント

- 売上高は円高の影響を踏まえ減収となるも、営業利益はコア事業の収益力や競争力の向上により増益を見込む
- 為替は1USD/140円を想定
- 米相互関税影響を考慮したリスクシナリオの詳細は29, 30ページで説明

(百万円)	2025年3月期	2026年3月期 ベースシナリオ			
	通期	上半期	下半期	通期予想	前期比
売上高	1,522,703	774,500	745,500	1,520,000	-0.2%
営業利益	94,482	42,500	57,500	100,000	+5.8%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	59,457	30,000	41,000	71,000	+19.4%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益 <small>(円)</small>	147.58	74.70	102.10	176.80	+19.8%

①

米相互関税影響について

②

2026年3月期計画について

③

M&A案件について

④

中長期的な成長に向けた取り組み

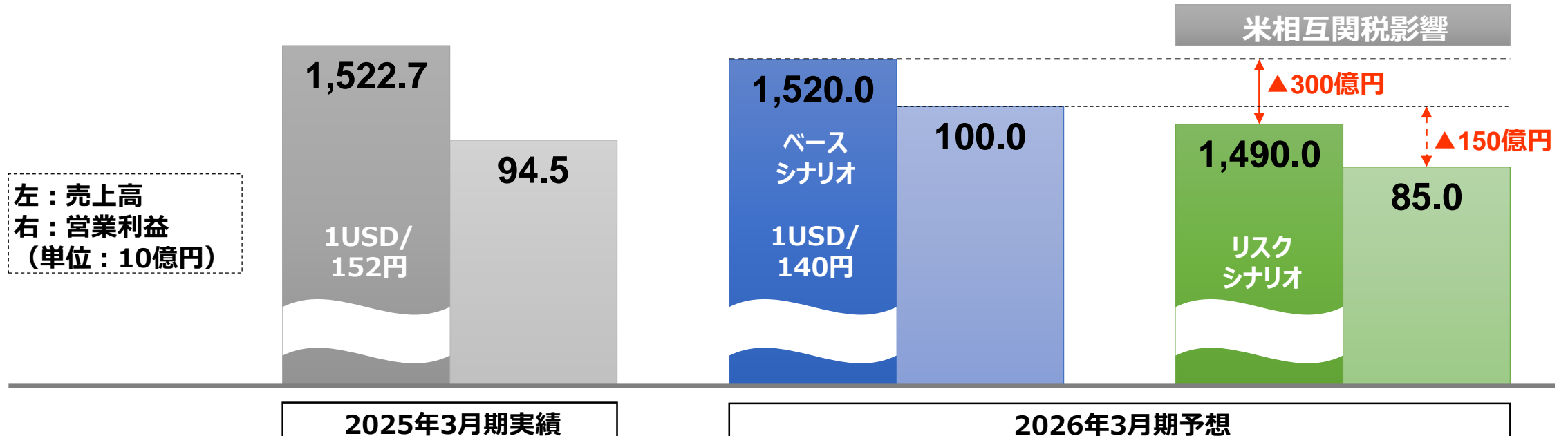
⑤

株主還元

米相互関税影響により、2026年度3月期の売上高において300億円、営業利益において150億円のマイナス影響を想定

## ■前提条件：

- 米相互関税によるコスト増は売価転嫁を基本戦略とするため直接的な影響は軽微であるも、値上げによる需要減の影響を想定。なお、マクロ景況感悪化等の二次的な影響は含まれない。
- 1Q（4-6月期）は90日間の米相互関税停止期間中のためほぼ影響なく、2Q以降の9か月分に対してのみ減収影響が生じると想定。
- 市場見通し：グローバル市場の用途別売上高に対して以下の減収影響を見込む。
  - 自動車市場：自動車販売台数減による減収（S&Pグローバルモビリティの自動車販売台数予測より減速する△3%を見込む）
  - 航空機市場：新造機のバックログ多く、影響は軽微と推定
  - スマートフォン・ゲーム市場：米国民の海外旅行等による個人購入等が発生し、影響は軽微と推定
  - 家電・その他市場：生産台数減による減収（自動車市場と同等の△3%を見込む）



# 2026年3月期 売上高および営業利益見通し（セグメント別）

（単位：10億円）

セグメント	2025年3月期実績 （セグメント変更前）		2026年3月期 ベースシナリオ		2026年3月期 リスクシナリオ	
	売上高	営業利益	売上高 対前年比（※）	営業利益 対前年比（※）	売上高 対前年比（※）	営業利益 対前年比（※）
<b>PT</b> （プレジジョンテクノロジーズ）	<b>255.7</b>	<b>55.7</b>	<b>256.0</b> +0.1%	<b>57.0</b> +2.3%	<b>250.0</b> -2.2%	<b>53.0</b> -4.8%
<b>MLS</b> （モーター・ライティング&センシング）	<b>407.7</b>	<b>23.0</b>	<b>427.0</b> +4.7%	<b>30.0</b> +30.5%	<b>416.0</b> +2.0%	<b>24.0</b> +4.4%
<b>SE</b> （セミコンダクタ&エレクトロニクス）	<b>527.6</b>	<b>22.0</b>	<b>516.0</b> -2.2%	<b>19.0</b> -13.6%	<b>511.0</b> -3.2%	<b>18.0</b> -18.2%
<b>AS</b> （アクセスソリューションズ）	<b>328.1</b>	<b>15.9</b>	<b>316.0</b> -3.7%	<b>19.0</b> +19.3%	<b>308.0</b> -6.1%	<b>15.0</b> -5.8%
<b>その他／調整額</b>	<b>3.5</b>	<b>-22.1</b>	<b>5.0</b>	<b>-25.0</b>	<b>5.0</b>	<b>-25.0</b>
<b>合計</b>	<b>1,522.7</b>	<b>94.5</b>	<b>1,520.0</b> -0.2%	<b>100.0</b> +5.8%	<b>1,490.0</b> -2.1%	<b>85.0</b> -10.0%

※2025年3月期通期実績につき、セグメント変更による組み換えは考慮していません

①

米相互関税影響について

②

2026年3月期計画について

③

M&A案件について

④

中長期的な成長に向けた取り組み

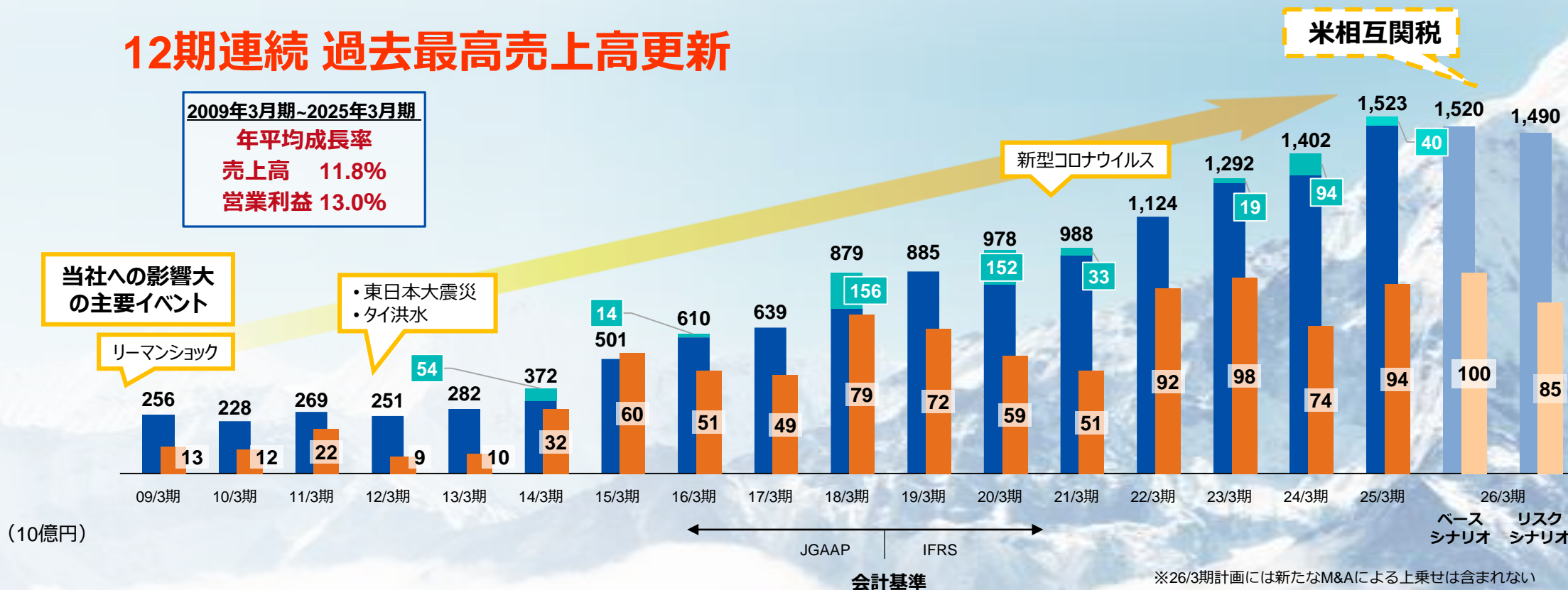
⑤

株主還元

## 事業ポートフォリオの多角化により、逆境を乗り越えサステナブルに成長 2027年3月期以降の計画は、外部環境の不透明さが解消次第アップデート予定

- オーガニック成長による売上高
- 主要なM&Aによる売上高
- 営業利益

### 12期連続 過去最高売上高更新





**データセンター・自動車向けは堅調、営業利益600億円が狙えるポジションに  
航空機向けはグローバル生産ネットワークを増強し市場を上回る成長を見込む**

## 主なポイント

### 1 ベアリング

- データセンターにおけるデータ量の拡大は継続。空冷・水冷であっても当社のファンモーター需要は拡大
- 自動車市場は低迷するも、エンジンタイプの変化や車の高機能化によるコンテンツグロースは継続

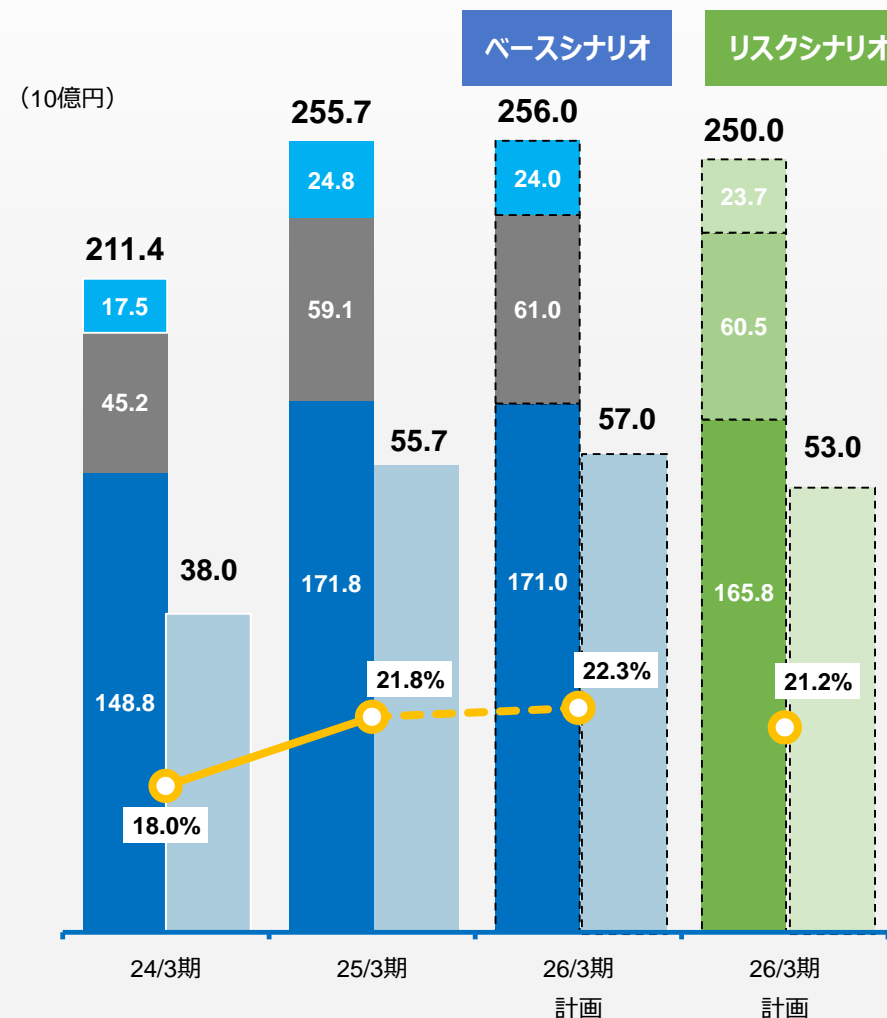
### 2 ロッドエンド・ファスナー

- 2025年2月にインドのMach Aeroの新工場（第三工場）が稼働。航空機用エンジン部品も新たに手がけ事業拡大を目指す

### 3 プレジジョンメカニカルコンポーネント (PMC)

- カンボジアのプルサット新工場が26年3月期中に一部稼働予定。市場の拡大が期待できる製品の生産拡大を目指す
- 現在のところお客様からの減産指示はなし

■ ボールベアリング売上高 ■ PMC売上高 ■ 営業利益 ○ 営業利益率  
■ ロッドエンド・ファスナー売上高



## モーターは27年3月期の営業利益率10%達成に向け、収益力向上に取り組む

### 主なポイント

#### 1 モーター

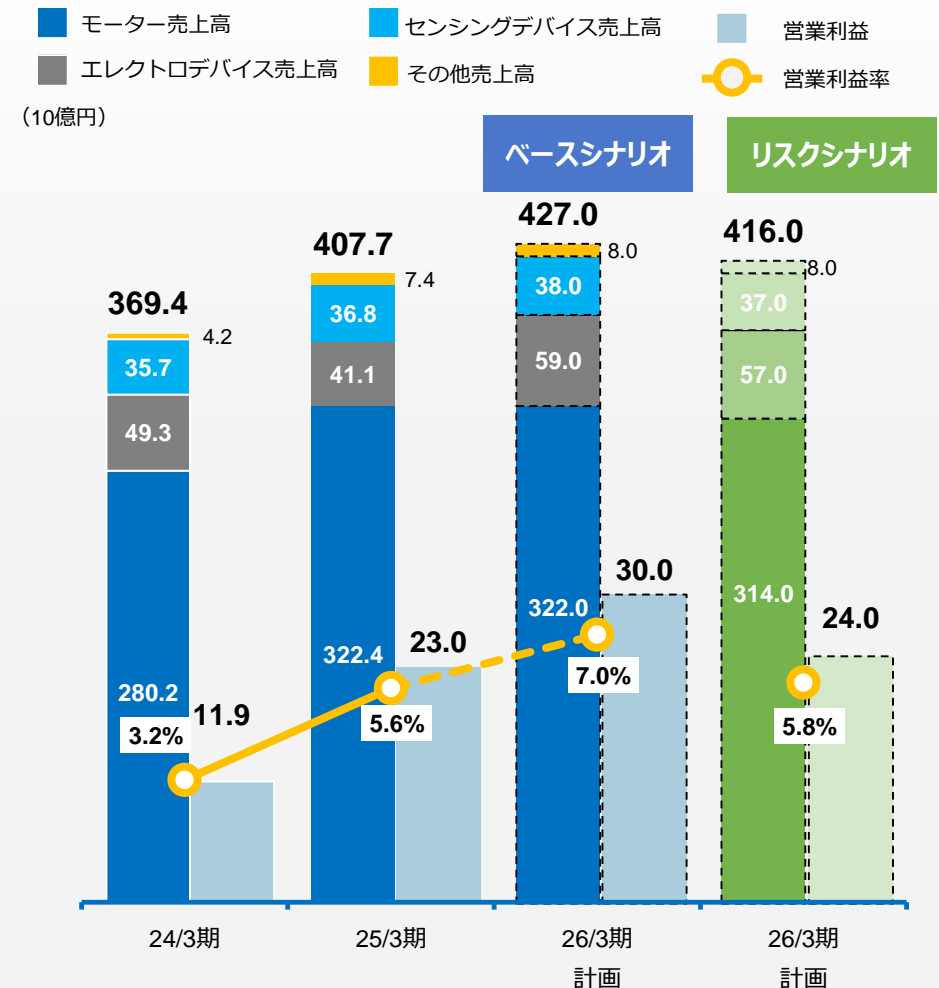
- 自動車向けは電動化および高機能化（快適性、安全性、環境性能）の需要が増え、市場低迷の中でもコンテンツグロースが見込まれる
- HDD向け、非車載向けも堅調な成長を見込む

#### 2 センサー

- 株式会社芝浦電子に対しTOBを開始。当社製品との「相合」による高付加価値製品の開発、事業拡大を目指す

#### 3 バックライト

- スマホから車載向けへの構造転換、2025年7月より車載中心に収益改善を見込む



## アナログ半導体は引き続きニッチ、カスタム領域に集中し、収益性向上へ サブコア事業(光デバイス・機構部品)は会長室ICUで基本動作を改善

### 主なポイント

#### 1 半導体

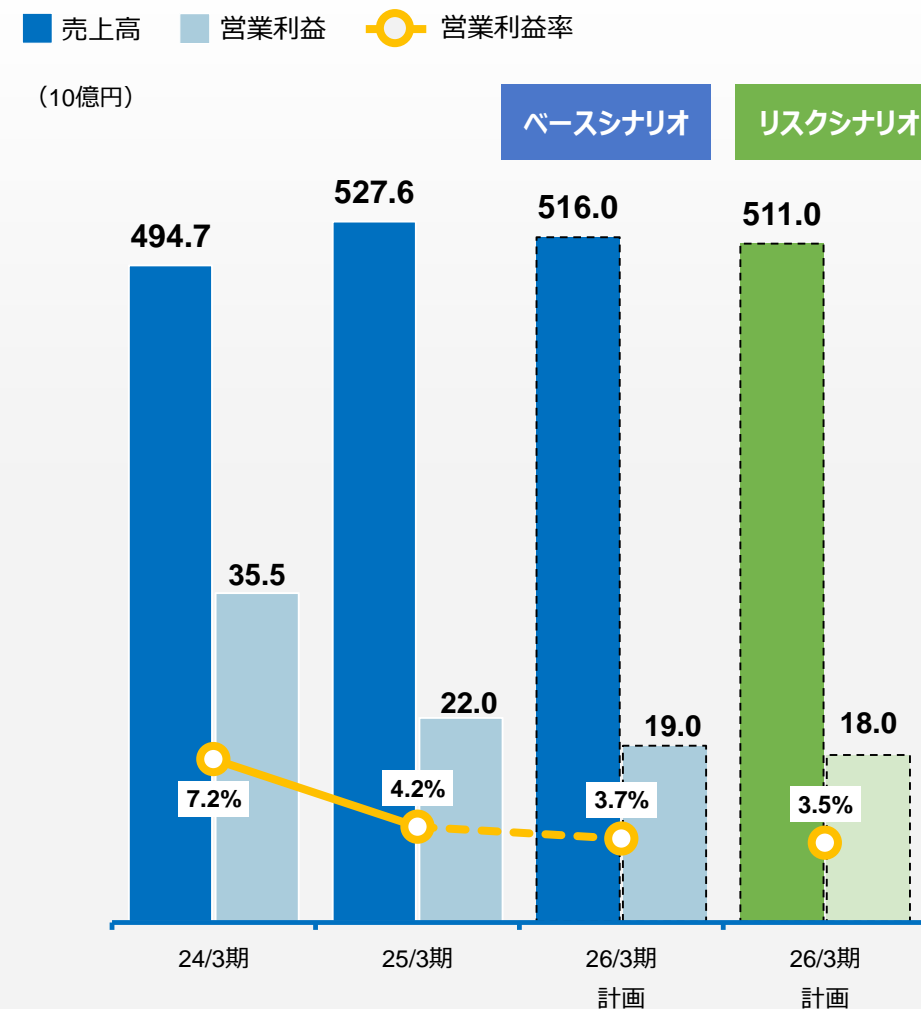
- ・アナログ半導体は、引き続きニッチ、カスタム領域に集中。後工程の生産能力強化のため、グローバルサウス補助金を活用し、セブ工場に最大規模の生産棟を建設開始(2025年4月着工、2026年10月竣工予定)
- ・パワー半導体は、高耐圧・高性能の分野に特化し、更なるビジネス拡大を進める

#### 2 光デバイス

- ・会長室ICUのもと基本動作を見直し中
- ・OISのレアアース輸出規制問題は2Q以降に解消を見込む

#### 3 機構部品

- ・会長室ICUのもと、基本動作を見直し終了
- ・新モデルの立ち上げも順調に開始  
足元では増産要求あり



自動車市場は低迷するものの、2025年3月期営業利益160億円を達成  
徹底的な生産性向上により、2026年3月期も収益性改善を継続

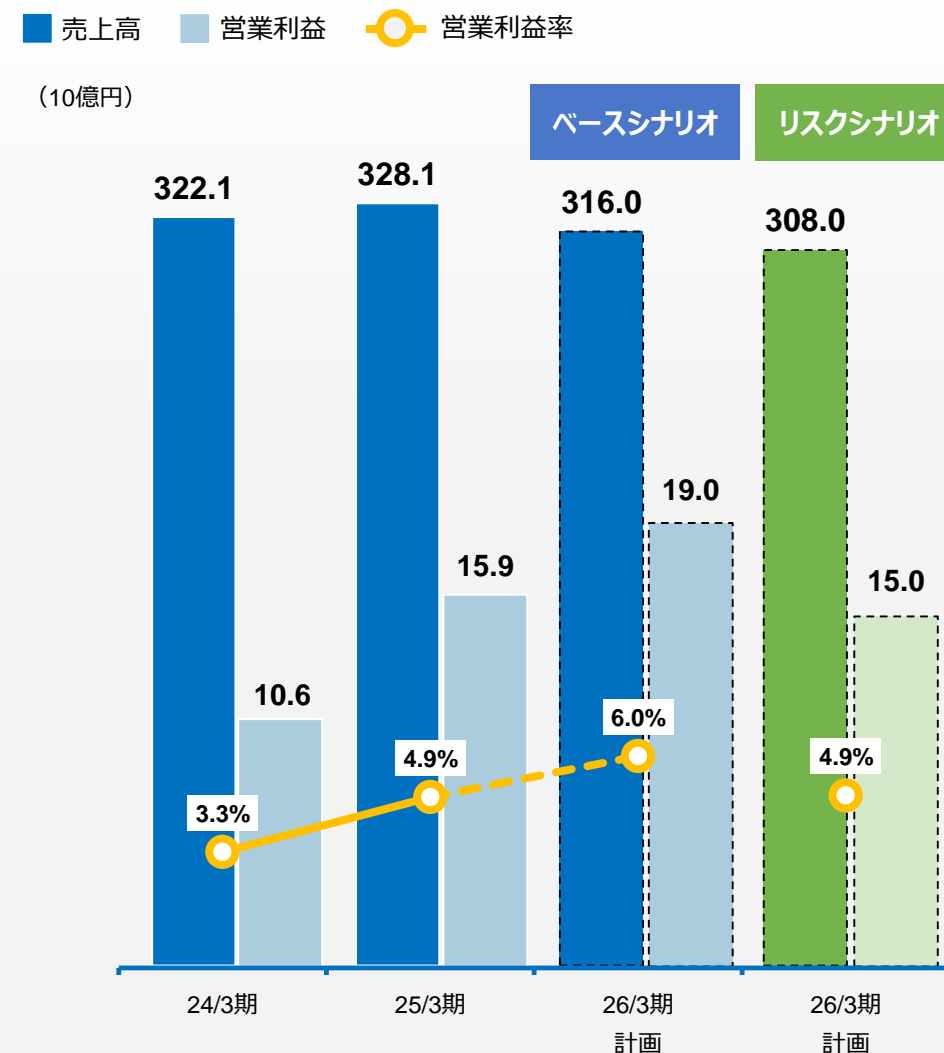
## 主なポイント

### 1 アクセス製品の電装化により、高付加価値製品の割合が増加

- ・アクセス製品の電装化が想定以上に拡大し、高付加価値製品の割合が増加
- ・フラッシュハンドル、ウイングハンドルなど、相合製品を続々市場へ投入

### 2 構造改革・価格是正に加え、徹底的な生産性向上により、売上減であるも、引き続き収益性改善を予想

### 3 インド向け二輪車ビジネスは堅調に推移



①

米相互関税影響について

②

2026年3月期計画について

③

M&A案件について

④

中長期的な成長に向けた取り組み

⑤

株主還元

## 株式会社芝浦電子の概要※



名称	株式会社芝浦電子			
所在地	埼玉県さいたま市中央区上落合2-1-24			
代表者の役職・氏名	代表取締役社長 葛西 晃			
事業内容	サーミスタ、温度・湿度・風速センサ等の製造販売			
資本金	21億4,461万円			
設立年月日	1953年3月3日			
大株主及び持株比率	株式会社日本カストディ銀行（信託口） 12.3% 他			
最近3年間の経営成績 及び財政状況 (百万円)		<b>22/3期</b>	<b>23/3期</b>	<b>24/3期</b>
	売上高	30,612	33,193	32,401
	営業利益	5,572	5,460	5,104
	純資産	28,710	31,783	35,162
	総資産	40,599	40,930	43,574

※2024年9月30日現在

## 芝浦電子は5本目の「槍」の中核となる見込み

### 8 本槍



200億円以上の営業利益が現実として見込める事業

#### 「槍」の定義とは？

- 1 大きな市場の中のニッチ市場であること
- 2 その製品は簡単な技術革新ではなくなる
- 3 当社の強みが活かせる製品であること
- 4 「槍」とされる各製品間でシナジー（「相合」）があること

1 ベアリング 営業利益 600億円以上

2 アナログ半導体 営業利益 300億円以上

3 モーター 営業利益 300億円以上

4 アクセサ製品 営業利益 200億円以上

5 センサー



6 コネクタ/スイッチ

7 電源

8 無線/通信/ソフトウェア

## 両社間で期待される、3つの高いシナジー

1



技術革新・イノベーションと  
高付加価値製品の開発

- 両社とも「垂直統合型」一貫生産体制に強み
- 高度な温度管理が求められる製品分野が急速に広がる中で、両社の製品・技術の掛け合わせによるイノベーションの可能性が増大

2



グローバル展開の加速

- ミネベアミツミはアジア・欧米中心に、28カ国・101か所の営業拠点と約2,000名の担当者を配置
- こうしたネットワークの活用により、芝浦電子製品の海外での営業展開を大幅に加速

3



オペレーションの効率化

- グローバル規模での製造・営業拠点の相互活用
- 原材料の共同調達やサプライチェーンの統合
- 以上を通じた収益性・生産性の大幅向上



従来の原則を基本としながらも、財務規律にこだわりすぎず、  
M&Aにおいても収益性を優先事項としていく

## ミネベアミツミのM&A大原則

- 1 既存ビジネス強化 and/or 相合が期待できるもの
- 2 適正価格の徹底（割高なものを買わない）



### 昨年度当初より

10%以上の(実質的)営業利益率に  
引き上げるため戦略・執行の一部を修正

2025年3月期 第1四半期 決算説明会資料より再掲

### M&Aについても

財務規律にこだわりすぎず、  
全社の営業利益率向上に資する  
ハイマージン企業をターゲットにしていく

統合報告書2024より再掲

①

米相互関税影響について

②

2026年3月期計画について

③

M&A案件について

④

中長期的な成長に向けた取り組み

⑤

株主還元

## 8つのコア事業「8本槍」を相合してシナジーを創出し、事業を拡大



### ウィングハンドル

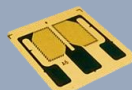
これまでにないタッチセンサー操作による電動ロック/アンロックが可能に  
シンプルなドアシステムを実現  
自動車設計の自由度を高める



ハンドル



センサー



モーター



### サイドドアドライブ

サイドドアの電動開閉に対応



ベアリング



モーター



プッシュロッド



### サイドドア開閉システム

相合により  
コンポーネントから  
システム開発へ



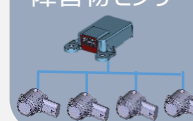
アクセス製品

ハンドル、ラッチ  
サイドドアドライブ

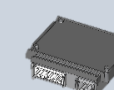


センサー

障害物センサー



ECU



### 高効率ファンモーター

自社モーターの特性を  
最大限に引き出す  
オンリーワンのICで電力を20%削減



モーター  
ファンモーター

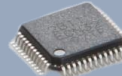


ベアリング



半導体

モータードライバIC  
モーター制御マイコン

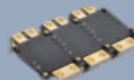


### ハイパワー電源

業界Top性能のSiC技術を駆使し  
充電インフラの電力損失を  
20%低減

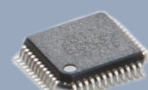


電源  
モジュール



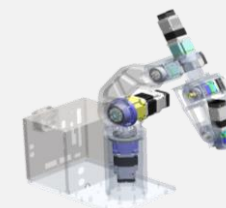
半導体

低損失SiCデバイス



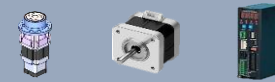
### ロボットアーム

自社製造した内製部品で  
ロボットアームを製造  
社内工場の省人化に貢献



モーター

関節モジュール：HBステッピングモーター  
アブソリュートエンコーダー、減速機



モーター  
コントローラ  
ドライバー

## ヒューマノイドロボット市場拡大の好機を確実に捉える 当社製品の市場規模は2030年に3兆円まで拡大

### 主なポイント

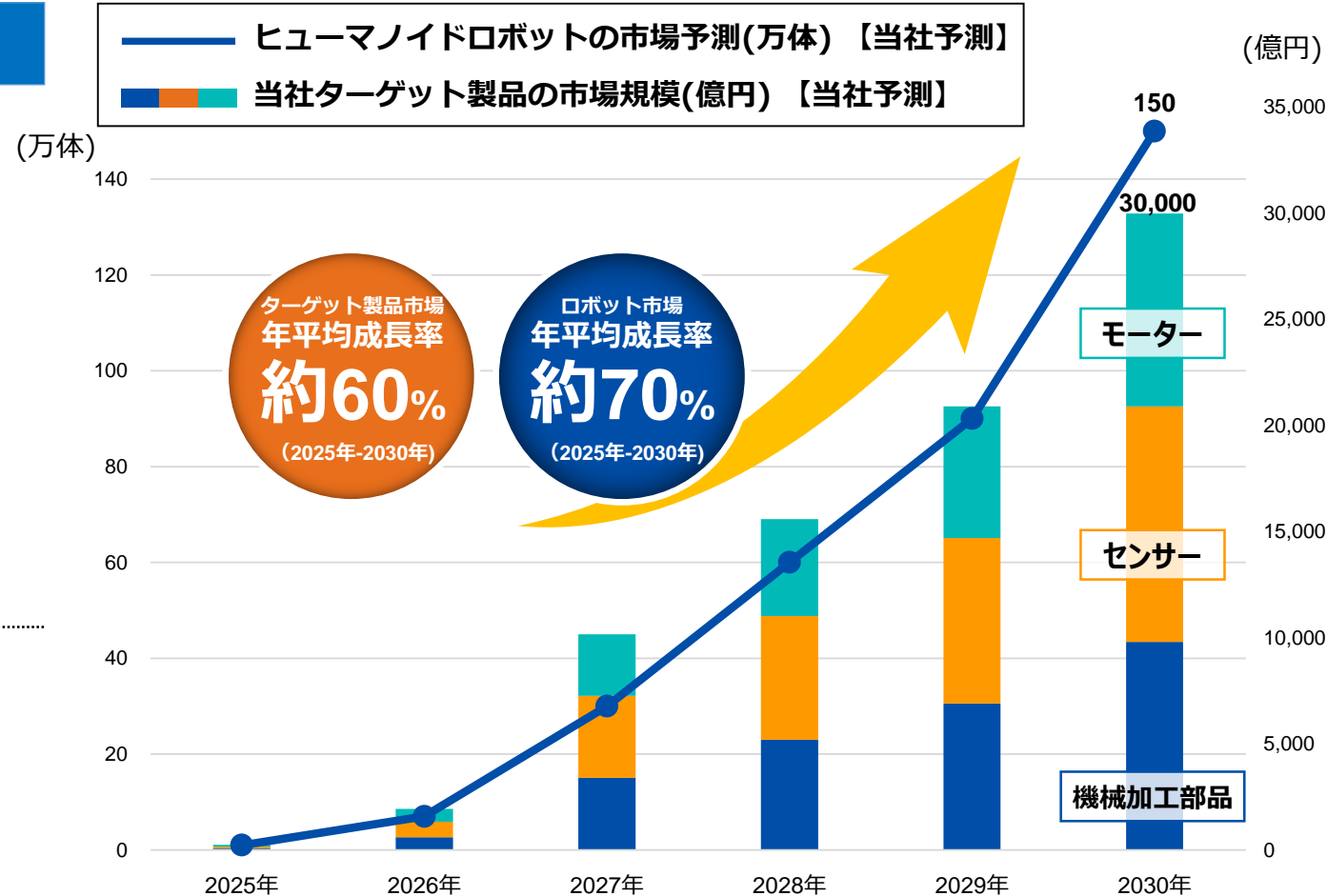
1

#### ヒューマノイドロボットの開発が本格化

- ・ 2025年から徐々に開発が始まり、2030年には150万体のヒューマノイドロボットが世の中に普及
- ・ ヒューマノイドロボットは、指一本につき、6個のベアリングが入るため、仮に5本指があれば30個、10本指であれば60個のボールベアリングが使用され、成長性を見込む

2

#### 当社が扱う製品の市場規模は3兆円にも及び、今後の成長ドライバーへ



## ヒューマノイド ロボット

カメラ・ビジョンセンサー



カメラ接続  
コネクタ      光学  
アクチュエータ

回転アクチュエータ



トルクセンサー      ベアリング      フレームレス  
モーター

小型ボールベアリング



リニアアクチュエータ



ボールネジ      ベアリング




フレームレス  
モーター      1軸力覚  
センサー

バッテリー



バッテリー  
プロテクション  
モジュール      電池保護IC      ファンモーター

間接駆動&位置決め用モーター



小型DCモーター

小型ステッピング  
モーター

把持用モーター



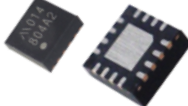
小型DCモーター 小型ステッピング  
モーター

コネクタ




中継コネクタ      内部配線用  
コネクタ      防水コネクタ

アナログ半導体

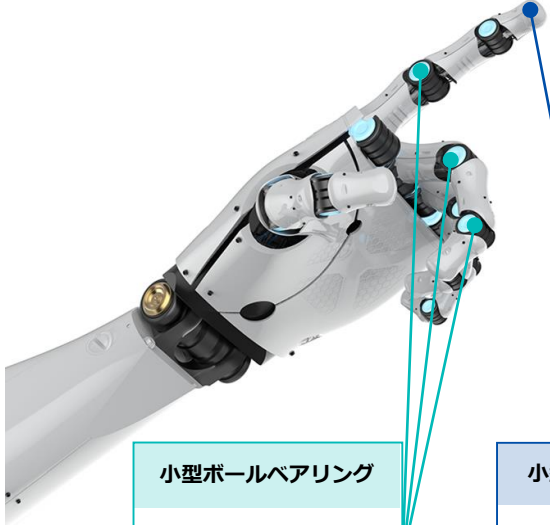


IC (ADC、AFE)  
(センサー信号処理)


アルミダイキャスト  
精密部品




精密機械加工部品



小型ボールベアリング

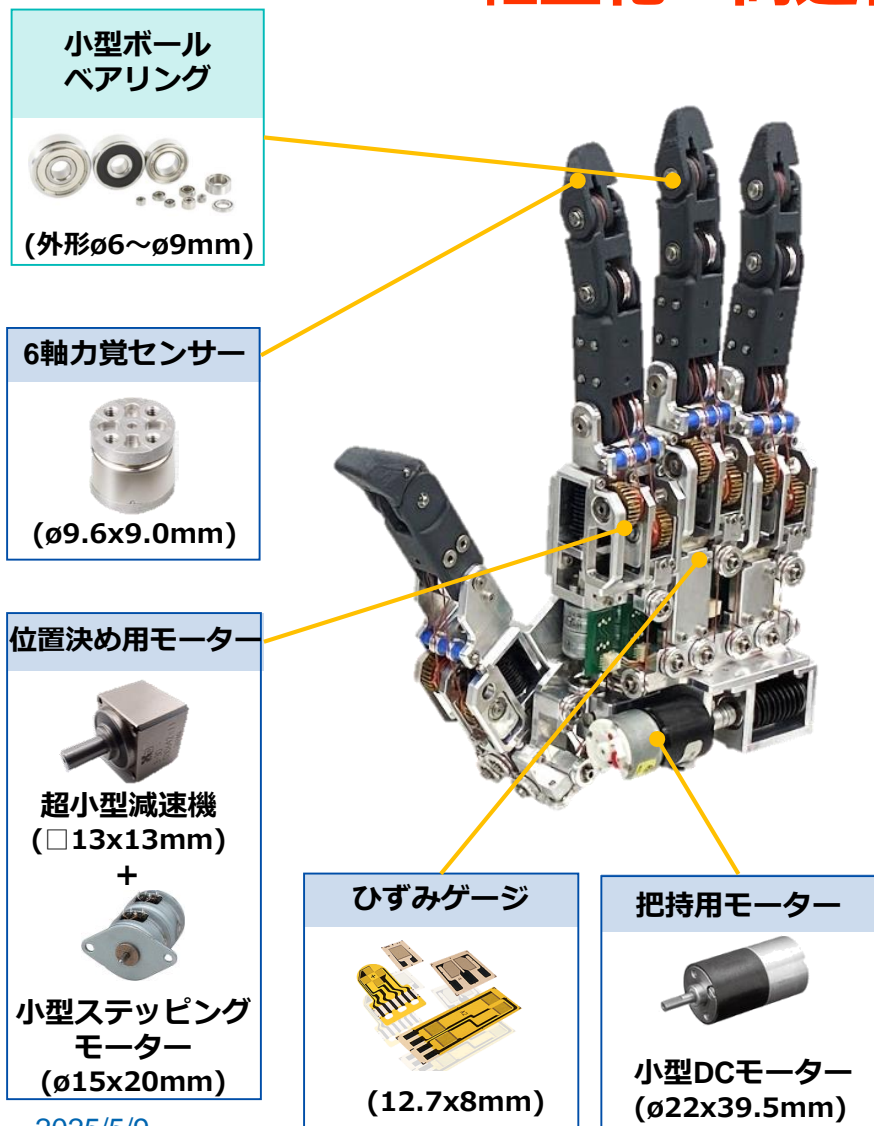


小型力覚センサー



## ロボットハンドに当社の製品を組み込み、 軽量化・高速化・高把持力化・繊細な動きを実現

### 新技術の開発製品として、CES2026へ出展予定



#### 主なポイント

- ・当社のセンサー技術とベアリングの持ち味を活かし、より高い把持力を有する実用領域の指の実現を追求
- ・既に減速機メーカーと協業を開始し、近い将来「汎用指モジュール」として市場投入を目指す

#### 当社製品による強み・特徴

- ① **軽量**  
ワイヤ+モーター駆動による指先の軽量コンパクト化。
- ② **高速・高把持力**  
位置決め用モーターと把持用モーターの組み合わせにより、素早い動作と高い把持力を両立。
- ③ **把持力協調機構**  
動滑車機構による各指間の力協調機構により、把持力のバランスを調整。

## コア事業「8本槍」の技術を深化・相合し、持続可能社会の実現に貢献



OSAKA, KANSAI, JAPAN  
EXPO  
2025



### 環境対策

会場整備参加サプライヤーとして協賛

スマートシティソリューション  
場所や作業に応じた遠隔管理・調光制御\*  
光を上空に漏らさない道路灯設計

\* 実施の大阪・関西万博での運用とは異なる場合があります。



### 健康社会実現

パソナグループ「PASONA NATUREVERSE」の  
オフィシャルパートナーとして「未来の眠り」を提供

未来の眠りを実現するミネベアミツミの技術  
ベッドセンサーシステムが一人ひとりの体の状態を検知。  
身体の状態に合わせた音や香り、振動と光によって  
良質な睡眠と快適な目覚めを実現



\* SALIOTは、ベッドセンサーブースや「PASONA NATUREVERSE」ショップならびに、運営参加サプライヤーとして「ギャラリーWEST」に設置されています。

©Expo 2025

### 遠隔地医療

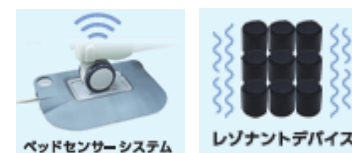
朝日インテック・パソナグループ  
共同展示PASONAパビリオン  
「からだゾーン『未来の医療』」に採用

#### レゾナントデバイス

近未来の遠隔治療・手術に貢献する  
触覚フィードバックデバイス

先端技術を駆使した近未来のカテーテル手術を  
ゲーム形式でシミュレーション操作体験

<使用されている当社製品>



## ミネベア・シュナイテック・グリーン・パワー社 (MSGP)の設立 カンボジア工場の再生エネルギー100%転換、カンボジア国内GHG削減に貢献

### 概要

- Minebea (Cambodia) (ミネベアカンボジア社)、カンボジア現地の政府認定電力事業者・パートナーSchneiTec社との合弁会社を2024年11月に設立

### 二国間クレジット制度資金支援事業採択

- MSGPが20MWの太陽光発電システムをプルサット州に新設し、発電した電力を20年間に亘り、カンボジア王国電力公社 (EDC) に売電
  - ➡この新設される太陽光発電により、**年間発電量：40GWh、年間CO<sub>2</sub>削減量：約14千t**となり、20年間カンボジアの電力供給に貢献
  - ➡売電量に応じた環境価値をミネベアカンボジアが享受することにより、**カンボジア工場で生産した製品が再生エネルギー100%の電力を使用したものとなる**
  - ➡MSGPは発電効率と技術サポート体制が優れた設備の導入を行う



SchneiTec社にて設置済みの太陽光発電システム



①

米相互関税影響について

②

2026年3月期計画について

③

M&A案件について

④

中長期的な成長に向けた取り組み

⑤

株主還元

## 配当方針

**持続的・安定的な配当**：中期的なキャッシュアロケーションポリシーに基づき、安定した配当を実施

**連結配当性向30%**：安定した収益基盤と事業成長の見通しを背景に、今後の連結配当性向を30%程度と想定

**長期的な信頼関係**：投資家の皆様との長期的な信頼関係を築くことを目指します

## 配当額

25/3期  
(実績)

期末 **25** 円/株 (5円増配)

年間 **45** 円/株 (5円増配)

【参考】24/3期実績

期末 20円/株

年間 40円/株

26/3期  
(予想)

年間配当金については、原則として**連結配当性向30%程度**を目処、  
経営環境を総合的に勘案し、継続して安定的な配当を目指す



当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

# 參考資料

# 【ご参考】 ①16年間の軌跡

## オーガニックとM&Aの両輪でサステナブルな 事業成長の基盤を構築

単位：百万円

	09/3期	25/3期	倍率	過去最高	
売上高	256,163	1,522,703	5.9倍	1,522,703	25/3期 (IFRS)
営業利益	13,406	94,482	7.0倍	97,530	23/3期 (IFRS)
親会社の所有者に帰属する 当期利益	2,441	59,457	24.4倍	73,152	23/3期 (IFRS)
基本的1株当たり 当期利益 (円)	6.18	147.58	23.9倍	178.23	23/3期 (IFRS)

1株当たり  
配当金

**6.4倍**

7円 → 45円  
2009年 2025年  
3月期 3月期

株価

**6.1倍**

358円 → 2,174円  
2009年 2025年  
3月31日 3月31日

時価総額

**6.5倍**

1,429億円 → 9,283億円  
2009年 2025年  
3月31日 3月31日

ネット  
D/Eレシオ

**70%改善**

1.0倍 → 0.3倍  
2009年 2025年  
3月31日 3月31日

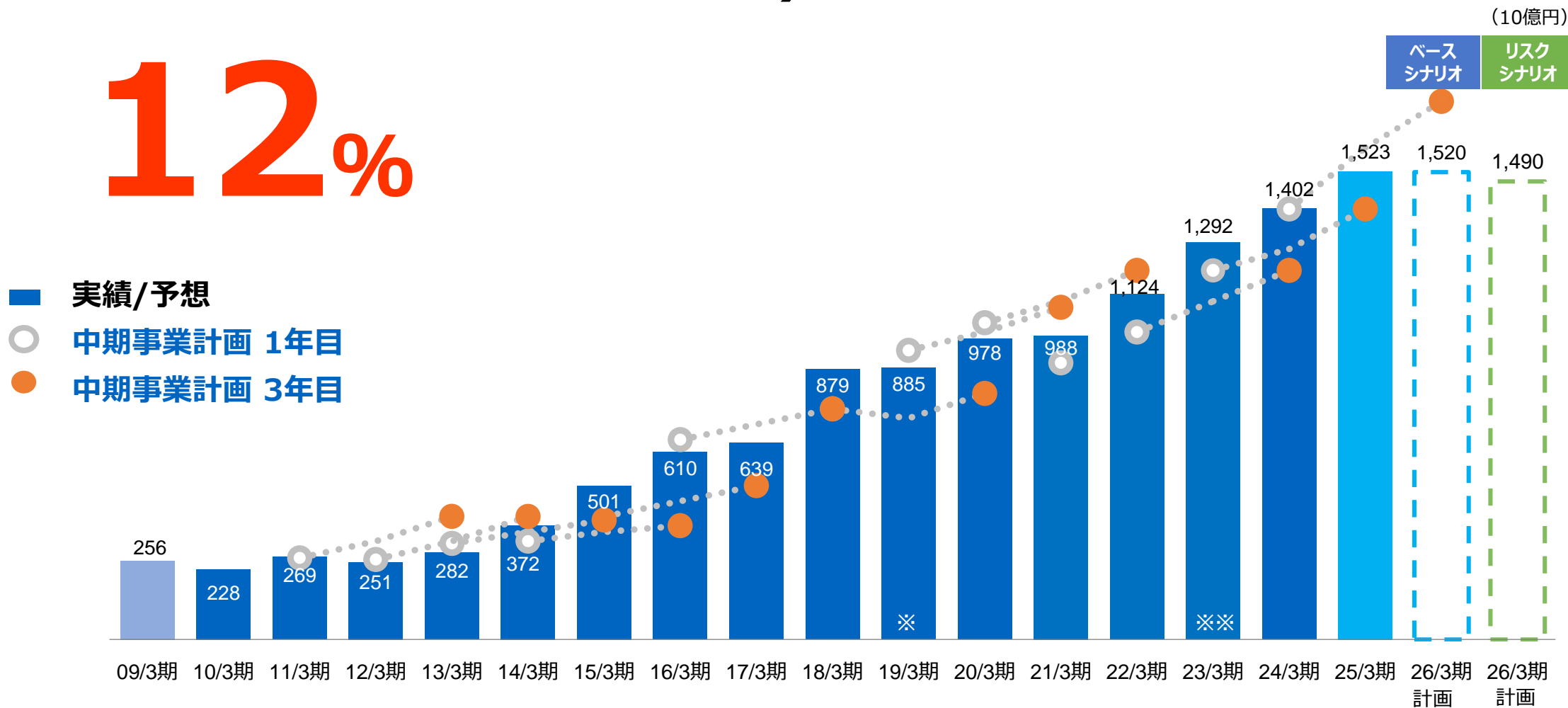
ROE

**3.9倍**

2.1% → 8.2%  
2009年 2025年  
3月31日 3月31日

## 売上高CAGR (09/3期-25/3期)

# 12%

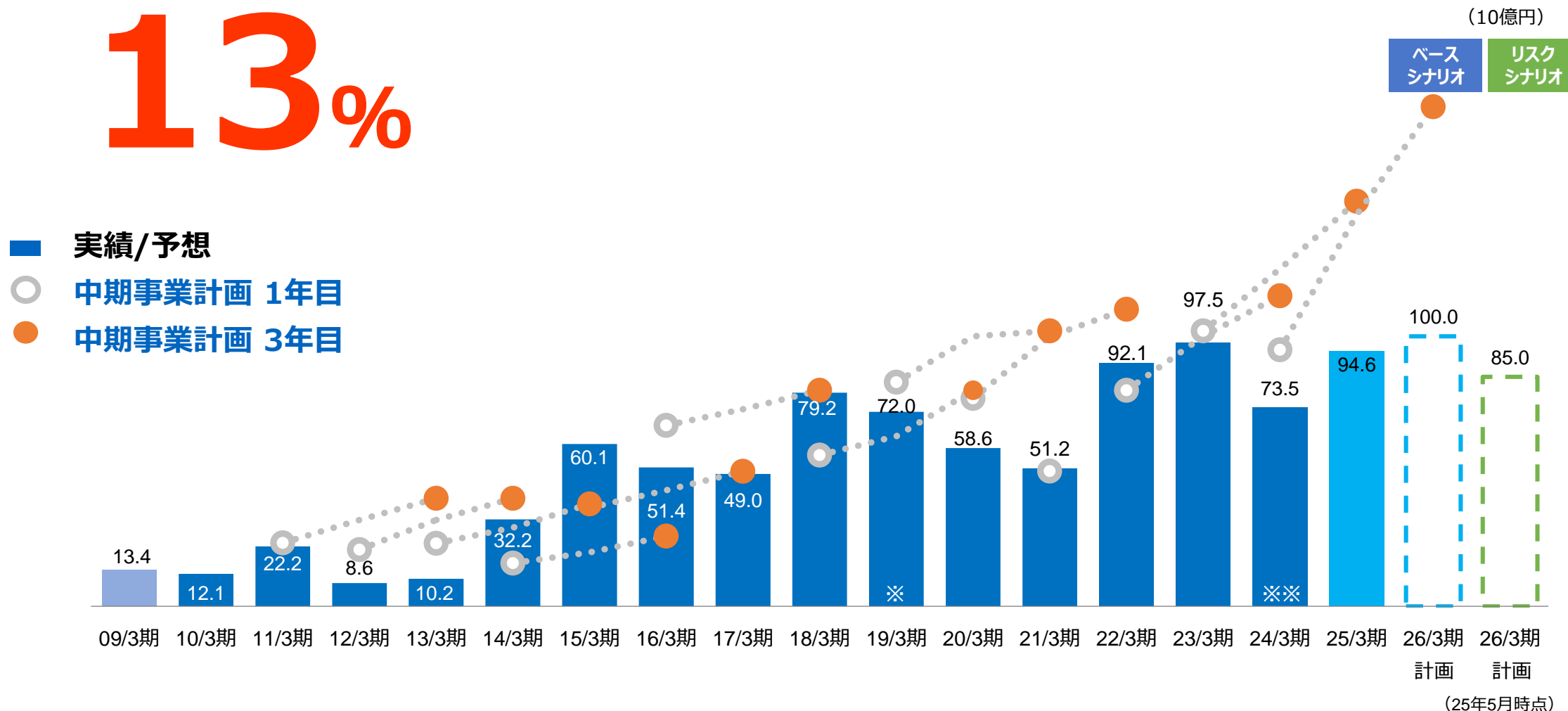


(25年5月時点)

※2016年3月期は経営統合に伴い中期事業計画を公表していないため中期事業計画3年目はblankとしております。  
 ※※2020年3月期に発表した中期事業計画は、新型コロナウイルスの影響に伴い、2022年3月期、2023年3月期の数値はイメージとしていたため、中期事業計画3年目はblankとしております。  
 ※※※2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期以降はIFRS

## 営業利益CAGR (09/3期-25/3期)

# 13%



※2016年3月期は経営統合に伴い中期事業計画を公表していないため中期事業計画3年目はblankとしております。  
 ※※2020年3月期に発表した中期事業計画は、新型コロナウイルスの影響に伴い、2022年3月期、2023年3月期の数値はイメージとしていたため、中期事業計画3年目はblankとしております。  
 ※※※2018年3月期までは日本会計基準、2019年3月期以降はIFRS



## ミネベアミツミのM&A大原則

- 1 既存ビジネス強化 and/or 相合が期待できるもの
- 2 適正価格の徹底（割高なものを買わない）

### 16年間 M&A実績

**29**件 うち、統合済み **28**件

統合済み28件の

企業価値の累計額

約 **3,060**億円

統合済み28件の

売上高合計（統合時点）

約 **6,550**億円

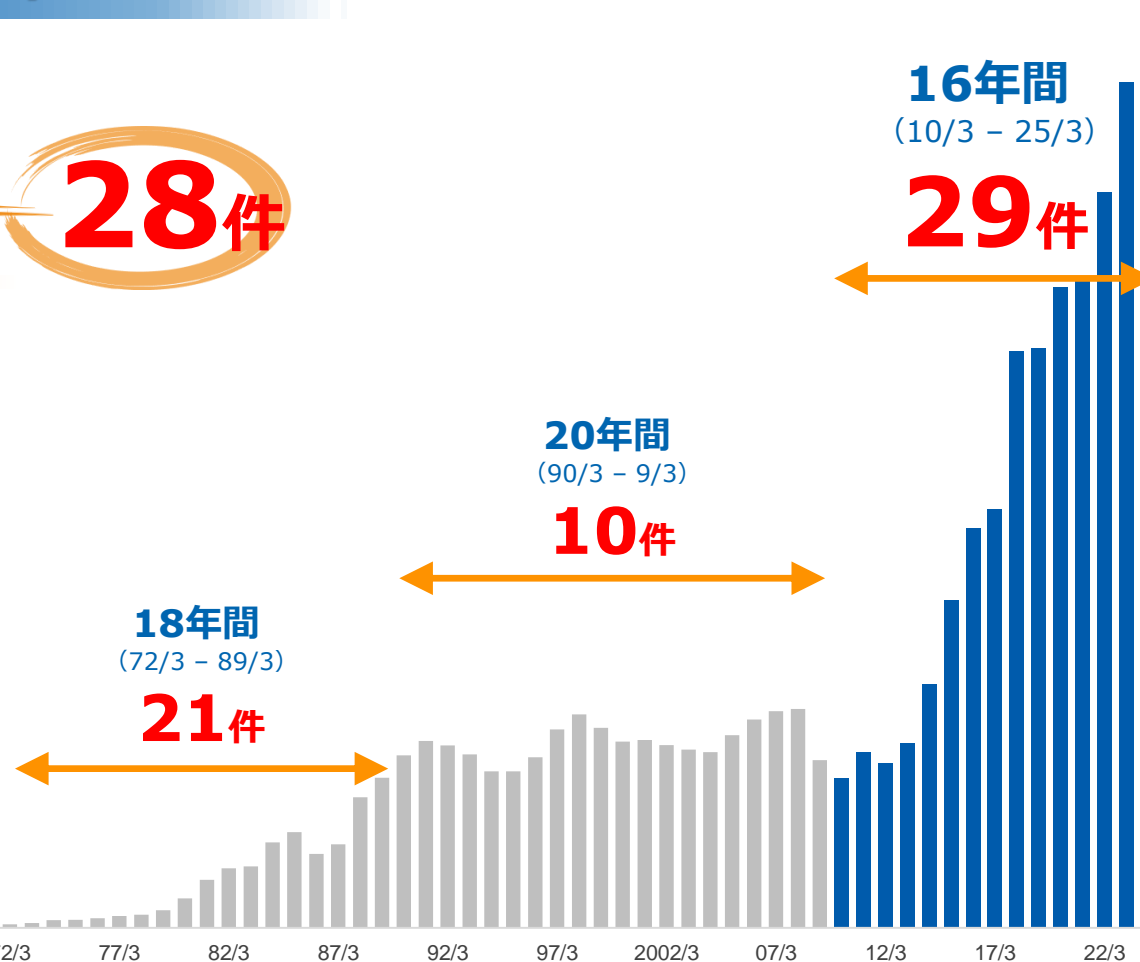
統合済み28件の

営業利益合計（25年3月期）

約 **430**億円

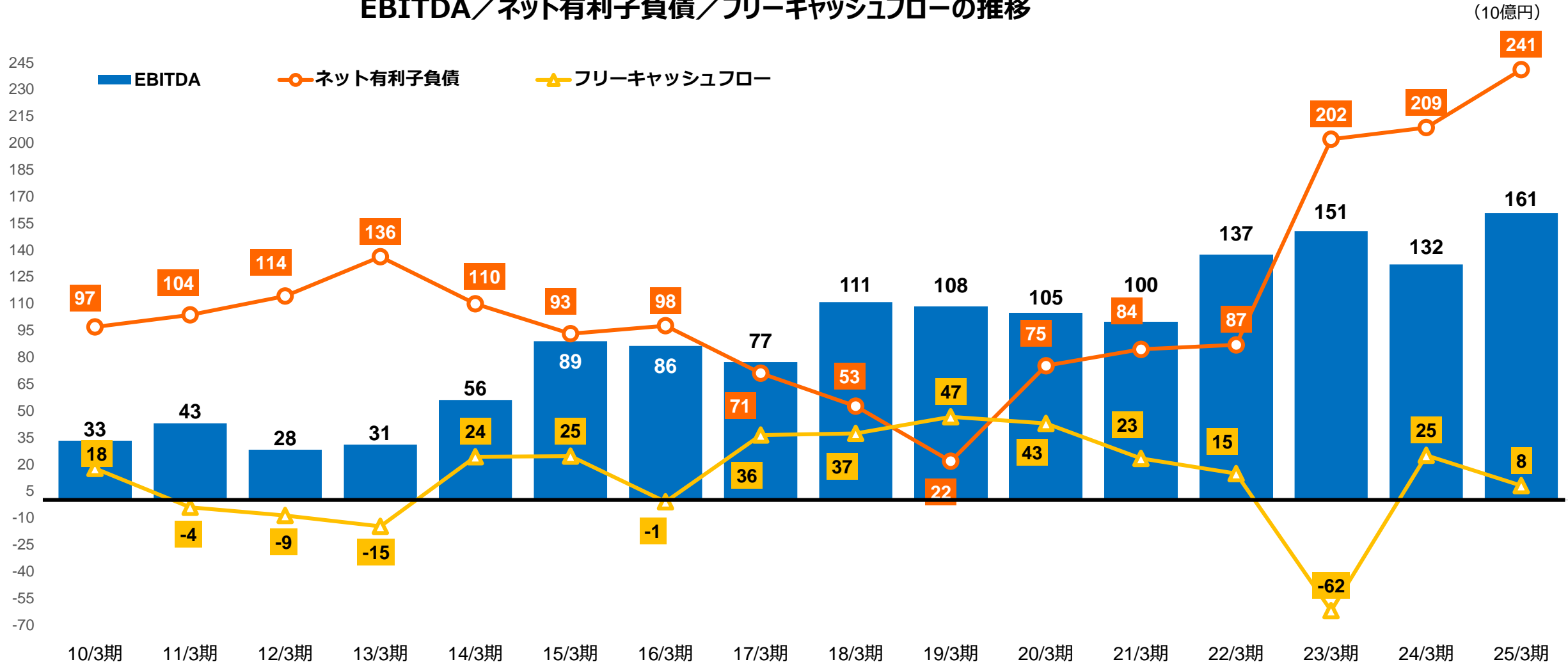
創業以来売上高

1952/3 57/3 62/3 67/3 72/3 77/3 82/3 87/3 92/3 97/3 2002/3 07/3 12/3 17/3 22/3



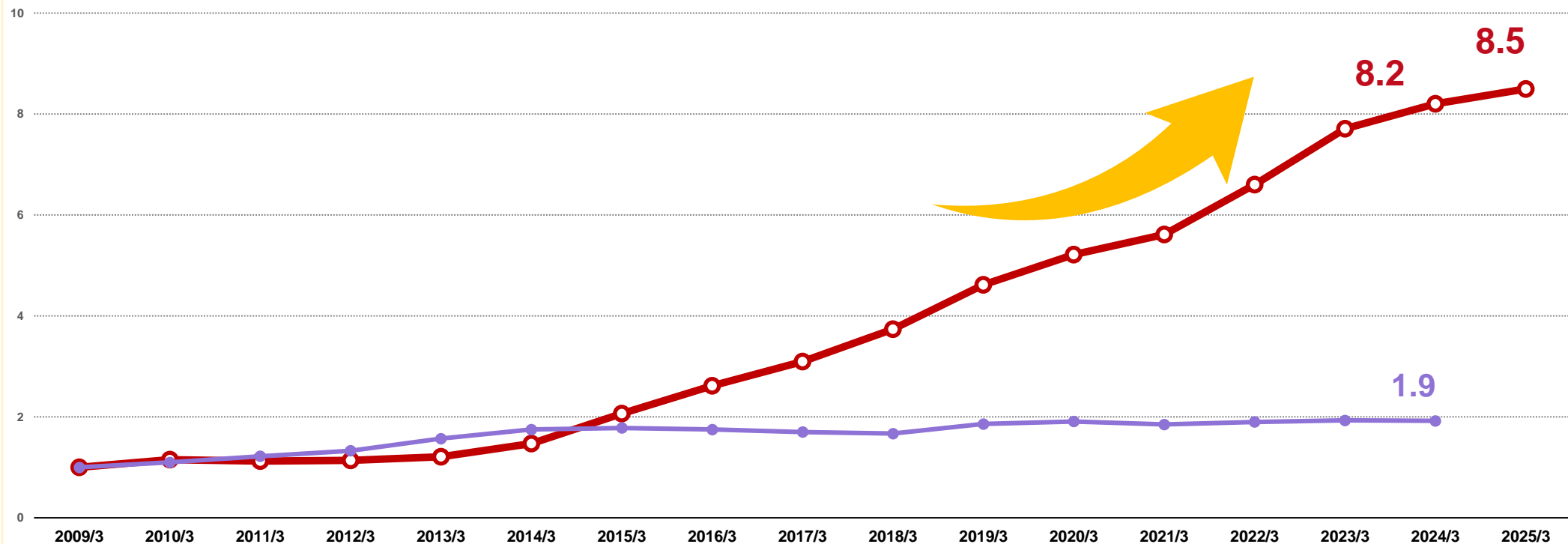
## 高収益に裏付けられたキャッシュ創出力

### EBITDA/ネット有利子負債/フリーキャッシュフローの推移



## EPS : 09/3期-25/3期はCAGR14.3%

EPSの比較 (2009年3月期を1として指数化)



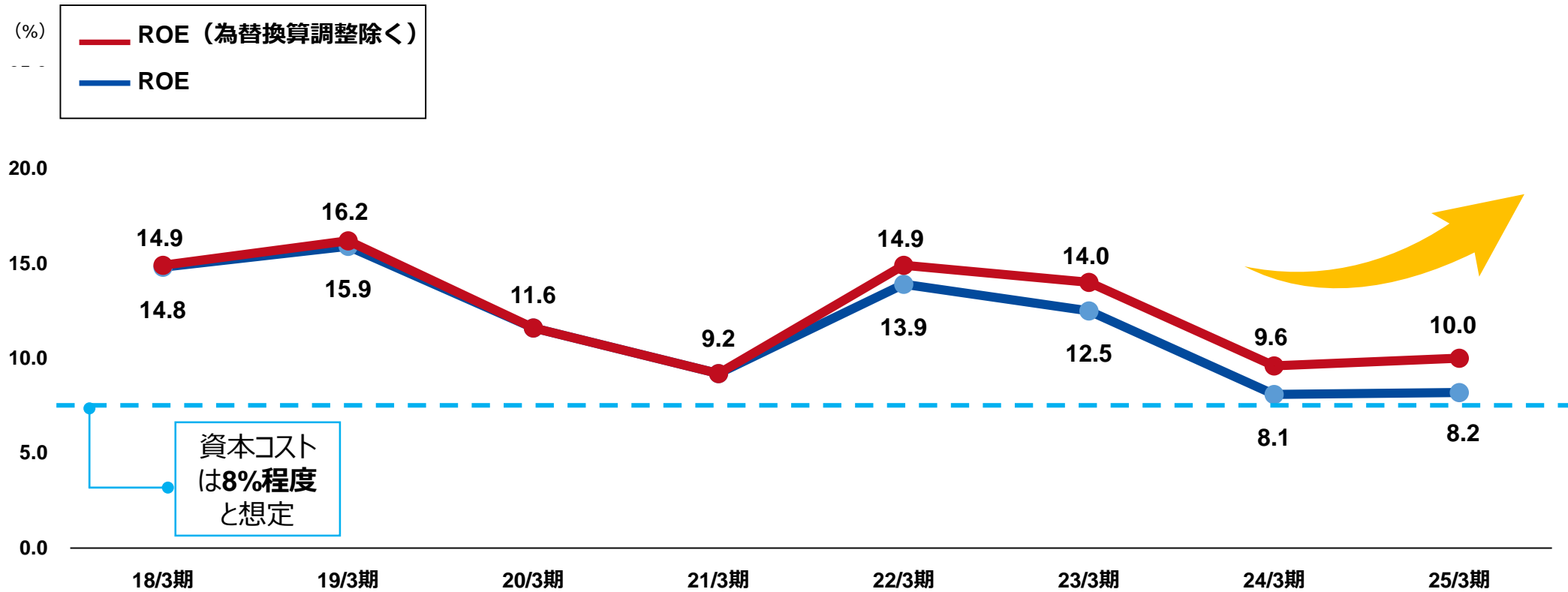
● 当社EPS (過去10年移動平均※)

● 東証プライム市場\*\*\*EPS (過去10年移動平均※)

※ 各年度の値は、09/3期を1とした場合。当年度を含む過去10年分実績の平均値

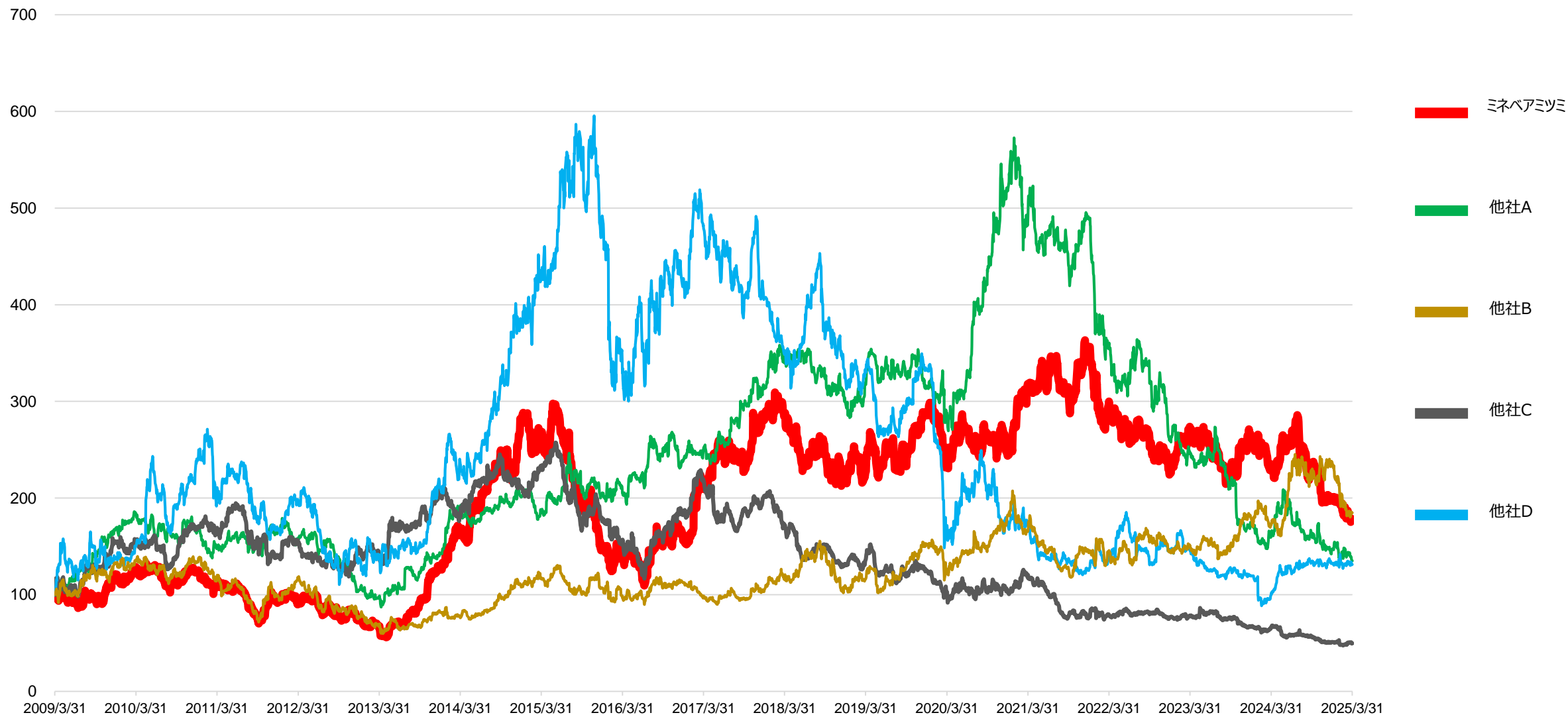
\*\*\* 21/3期以前は、東証市場第一部

ROE : 09/3期-25/3期平均実績**11.0%**



2019年3月期よりIFRSを適用しており、IFRSでの数値がある2018年3月期以降を記載

## 2009年3月31日を100とした場合の、対TOPIX株価パフォーマンス

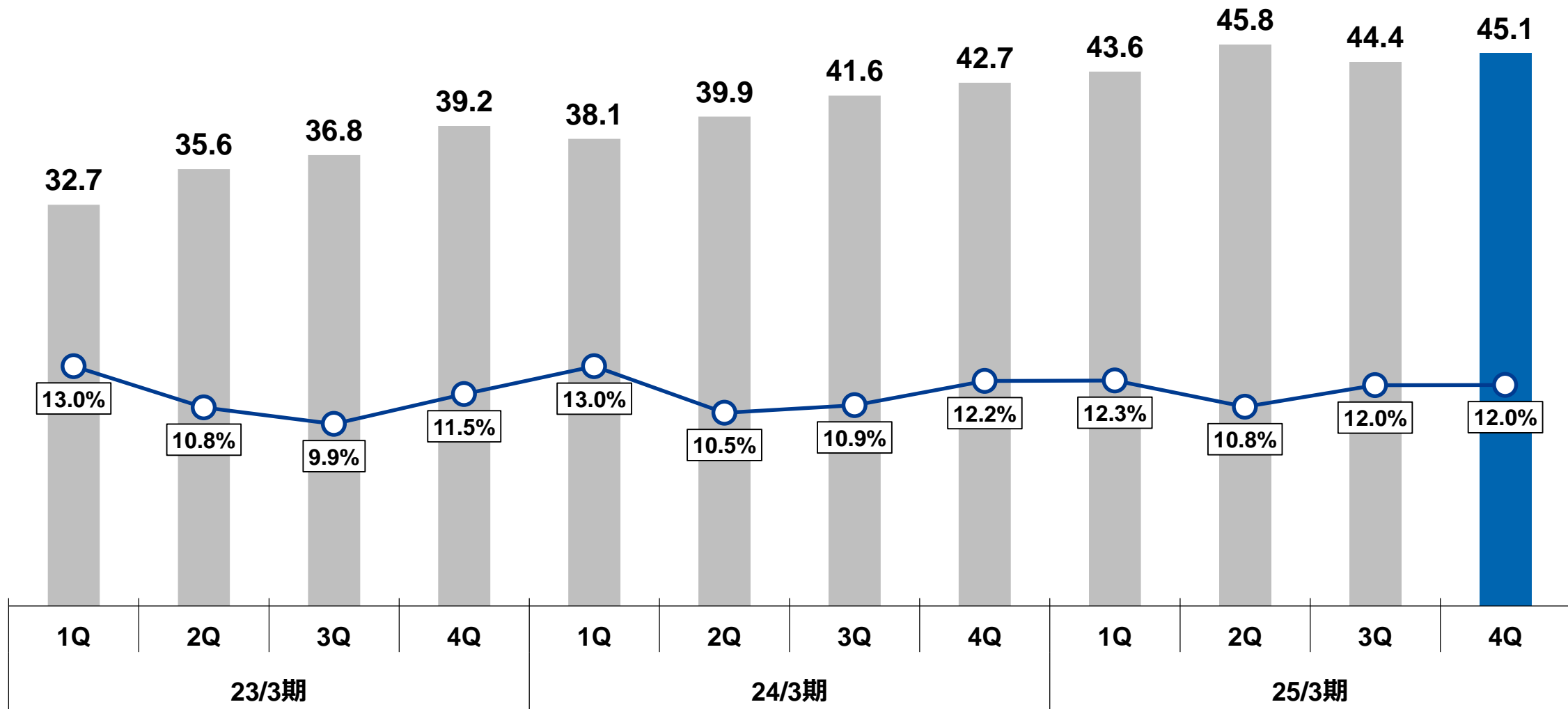


# 【ご参考】 ②財務数値

# 販管費

(10億円)

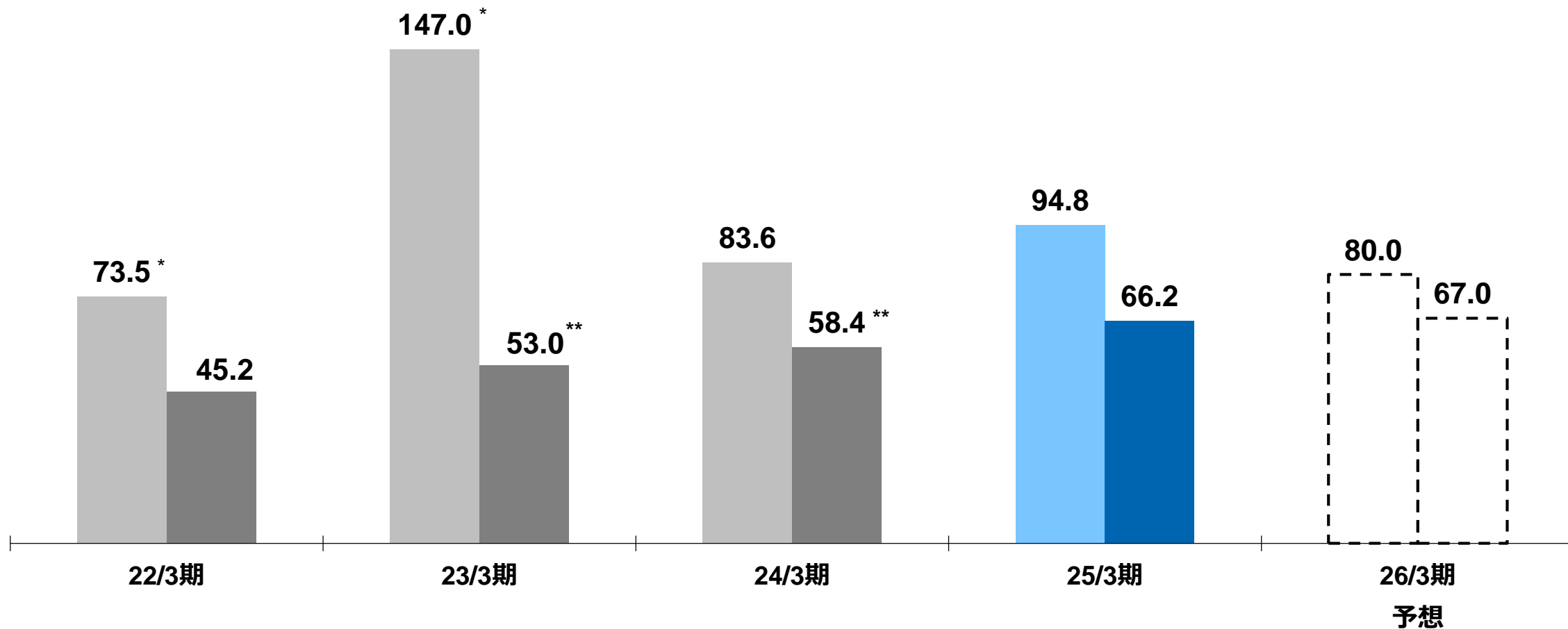
■ 販管費    ○ 売上高販管費比率



# 設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



\*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

\*\*本多通信工業・ミネベアコネクト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正。



# ROIC (投下資本利益率)

ミネベアミツミ版  
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

